

# 福祉のこころ醸成事業 実施マニュアル



「福祉教育推進委員会」の様子



「福祉のこころ醸成プログラム」の様子  
(いのちの授業)



「地域関係者の連携による取り組み」の様子

## はじめに

近年、子供や家庭を取り巻く環境は大きく変化し、地域の連帯感や人間関係の希薄化などにより、子供の健やかな成長を阻害する要因が増大していると言われています。

なかでも、児童虐待、いじめ、自殺問題など、命がないがしろにされる現代社会において、命の尊さを学び、社会に活かすための取り組みが重要視されています。

そこで山梨県社会福祉協議会では、平成19年度から、地域における「福祉教育の推進」に着手し、「福祉教育実践プログラム」の開発・推進・検証を行って参りました。

プログラムの開発・推進等にあたっては、学識経験者や学校関係者をはじめ、PTA、教育行政関係者、ボランティア団体、福祉団体等で構成した「福祉のこころ醸成プログラム検討会議」(新藤京子座長)を設置し、「学校が取り組む福祉教育」、「ボランティア活動普及協力校の取り組み」、そして「命を輝かせるための共感の輪をどう広げるか」などについて研究協議を重ね、福祉教育の現状における課題の整理と対応策の検討を行って参りました。

本会では、同検討会議での研究協議を踏まえ、「地域と一体となった福祉教育の実践」を新たな目標に掲げ、平成21年度から「福祉のこころ醸成事業」への取り組みを開始し、「生命(いのち)の授業」を実施するなど精力的に取り組んできたところです。

また、こうした取り組みと並行して、「福祉のこころ醸成事業」の効果を波及させるため、「福祉のこころ醸成事業マニュアル検討会議」(渡辺裕一座長)を立ち上げ、平成22年度、23年度の2年間に渡り「福祉のこころ醸成事業実施マニュアル」の検討も重ねて参りました。

この度、これまでの成果と円滑な事業実施のためのポイントを集約した「福祉のこころ醸成事業実施マニュアル」が完成いたしましたのでご報告を申し上げますとともに、本マニュアルが福祉教育推進の現場で有効にご活用いただければ幸いに存じます。

本会といたしましても、「福祉のこころ醸成事業」が多くの地域に浸透し定着していくよう、県内全ての市町村社会福祉協議会と連携協働し、「地域における福祉教育」の推進に取り組んでいく所存であります。

末筆ではありますが、これまで事業推進にご尽力いただいた検討委員の皆様、また、市町村社会福祉協議会の皆様、また訪問支援をいただいた推進委員の皆様にご心から感謝を申し上げますとともに御礼を申し上げます。

平成24年3月

社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会  
会長 石川 豊

# 目 次

I	福祉のこころ醸成事業の目的	1
1	事業の目的・方法・効果	
2	これまでの取り組みと成果	
II	福祉のこころ醸成事業フローチャート	3
III	福祉のこころ醸成プログラム（ <sup>いのち</sup> 生命の授業）について	4
1	「福祉のこころ」とは・・・	
2	プログラムメニューの紹介	
3	プログラムの流れについて	
IV	福祉教育推進委員会の設置とそのあり方について	11
1	福祉教育推進委員会のねらい	
2	構成メンバーについて	
3	福祉教育推進委員会の円滑な運営方法	
V	地域関係者の連携による取り組みについて	16
1	取り組みの意義	
2	取り組みの具体的事例	
VI	福祉のこころ醸成事業の評価について	19
1	評価の考え方	
2	評価の具体的な方法	
VII	平成23年度の実践事例	23
VIII	福祉のこころ醸成事業Q&A	57
資料編		61
	・「福祉のこころ醸成事業」実施要綱	
	・「福祉のこころ醸成事業」の経過	
	・「福祉のこころ醸成事業マニュアル検討会議」の経過	

# I

## 1 事業の目的・方法・効果

### (1) 目的

- ①地域における福祉教育関係者のネットワークの拡充
- ②子どもの福祉のこころの醸成、大人の福祉のこころの再学習
- ③住民主体の福祉教育・地域福祉活動の活発化・継続化

### (2) 方法

- ①「福祉教育推進委員会」の設置と福祉教育プログラムの推進
- ②学校と連携した「福祉のこころの醸成プログラム」の展開
- ③「地域関係者の連携による取り組み」の展開

### (3) 期待される効果

- ・福祉を学ぶ学習の機会が増える
- ・福祉コミュニティづくりに参加する住民が増える
- ・福祉教育の実施・機会の場が増える
- ・地域の福祉課題の共有化が進む
- ・住民主体の支え合い事業が増える
- ・学校との関わりを通して地域における世代間交流が増える

など

## 2 これまでの取り組みと成果

平成21年度から市町村社会福祉協議会（以下、「市町村社協」という。）をモデル指定し、平成23年度までに15ヶ所の市町村社協がモデル指定を受けています。（「福祉のこころ醸成事業」の経過についてはP. 64を参照）

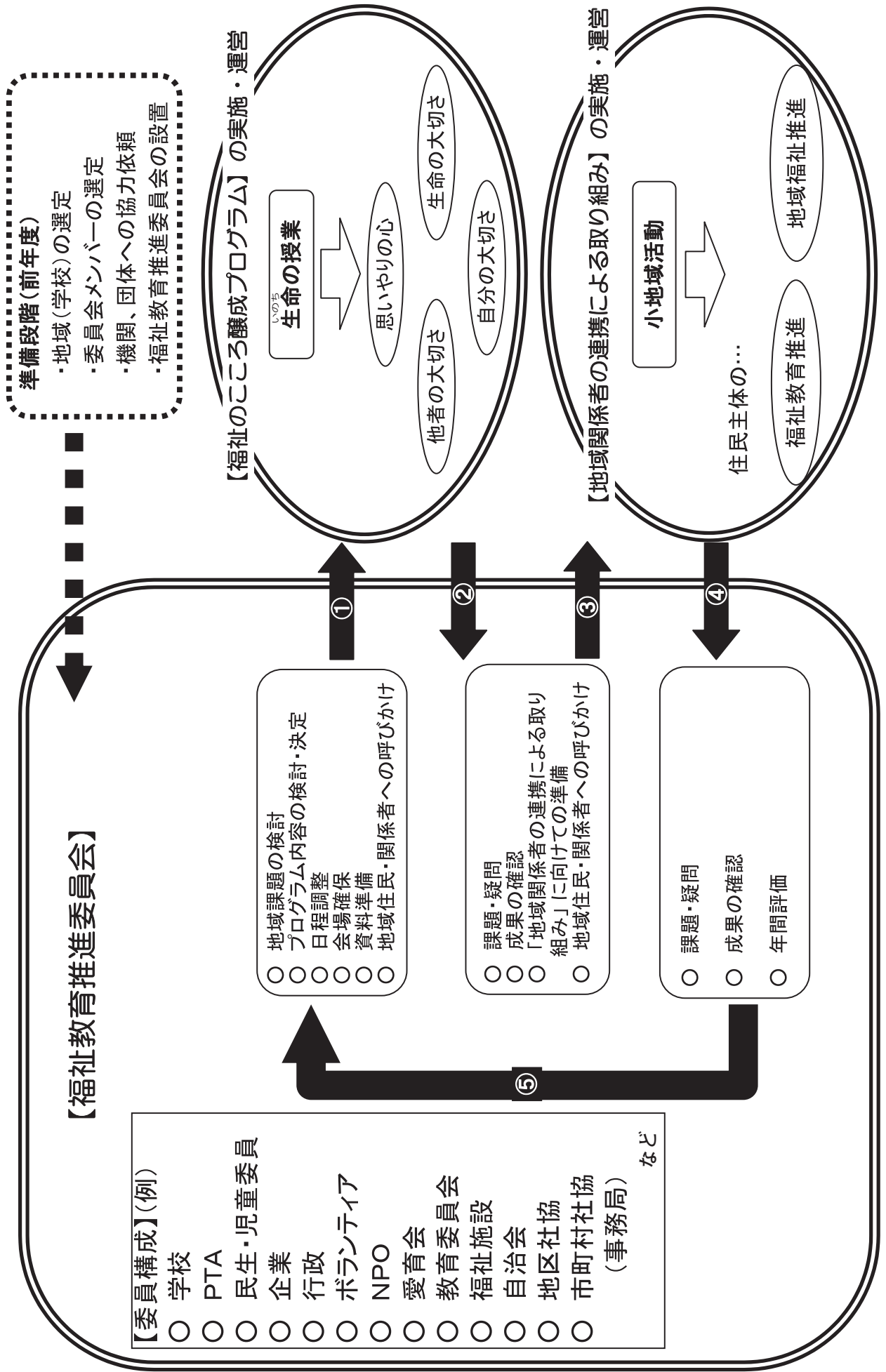
実践の場では、学校における「生命の授業」への児童・生徒や保護

者、地域住民の参加により子どもだけでなく地域全体を視野に入れた福祉のこころの醸成が図られています。

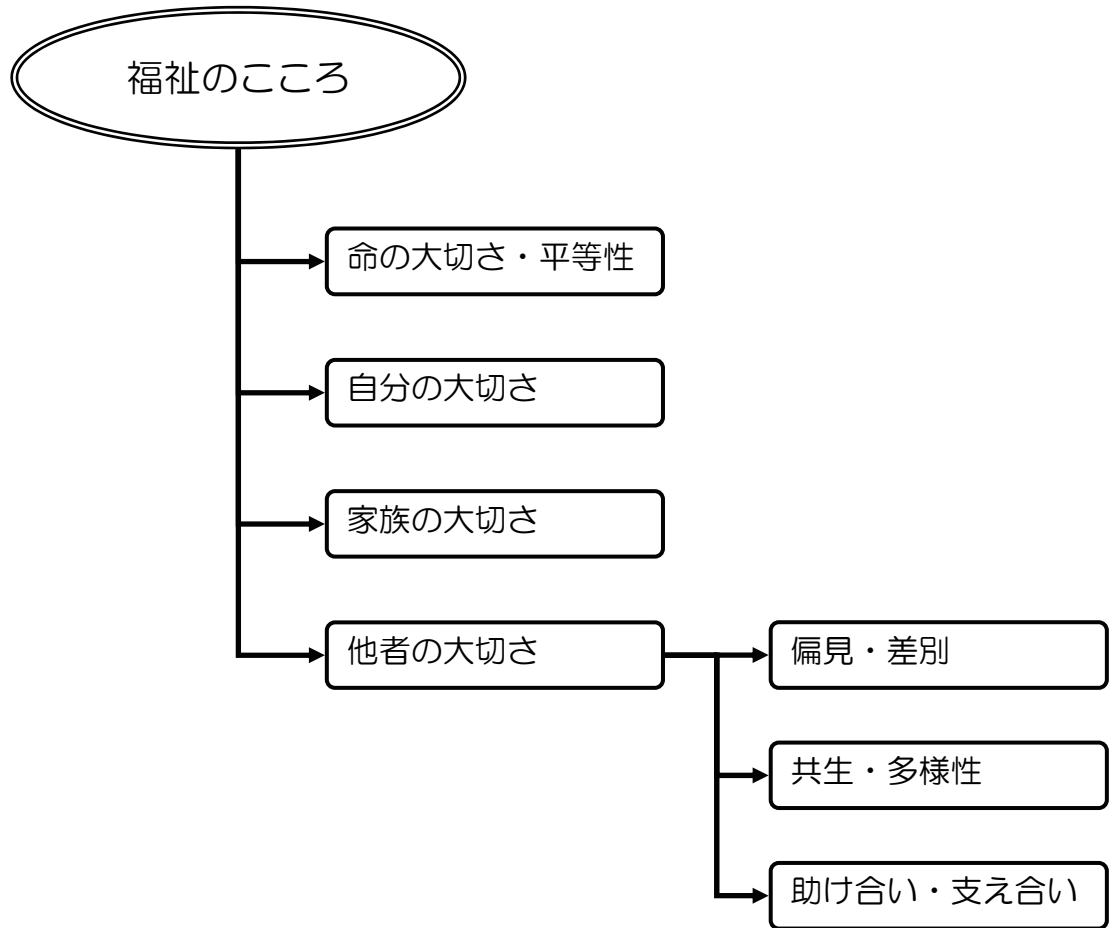
また、福祉教育推進委員会を中心に学校や福祉教育関係者、地域住民が連携して事業が展開されてきました。連携によって、既存の取り組みの幅の広がりや今まではあまり関係のなかった機関・団体とつながることによる、新たな取り組みの展開などが成果として表れています。

事業の成果については、本事業のねらいがどの程度達成できたかについて具体的に評価していくことも重要です。プログラムの評価方法については、P. 19をご確認ください。

## II 福祉のこころ醸成事業 フローチャート



# 1 「福祉のこころ」とは・・・



平成20年度の「福祉のこころ醸成プログラム検討会議」(P. 64参照)において、同検討会議が醸成を試みようとしている「福祉のこころ」とは何かについて議論を行いました。

その中で、「福祉のこころ」を①命の大切さ②自分の大切さ③家族の大切さ④他者の大切さ（偏見・差別、共生・多様性、助け合い・支え合い）と体系付けています。

## 2 プログラムメニューの紹介

ここでは、平成21年度からモデル指定された市町村社協が取り組んだプログラムを紹介いたします。

### 小学校

テーマ	対象学年	内容	講師例
命の大切さ・平等性 他者の大切さ	1年生	聴覚障害者の生活の様子を知り、障害者への思いやりの大切さを学ぶ。	仁科加代子 氏
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 家族の大切さ 他者の大切さ	1～5年生	地域の方のお話を通して命の大切さ等について学ぶ。 「いのちを大切にすること」 「地球の水害～先人の生きるための活動～」 「戦争から…いのちを大切に」	地域住民(ボランティア)
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 他者の大切さ	1～6年生	絵本等の読み聞かせを通して命の大切さ等について学ぶ。 「かわいそうな象」著：土家由岐雄 「エリカ 奇跡のいのち」著：ルース・バンダージー 「おかあさんおめでとう」著：神沢利子 「いのちのおはなし」著：日野原重明	地域住民(ボランティア)
命の大切さ・平等性	1～6年生	障害を持ちながらスキーパラリンピック、ワールドカップに日本選手代表として出場し最高2位に入賞された経験、日常、児童たちに持ってもらいたい姿勢や態度、習慣を教わる。	長谷川順一 氏 (スキージャー)
命の大切さ	1～6年生	音楽を通じ、生命の大切さについて学ぶ。	しらいみちよ 氏



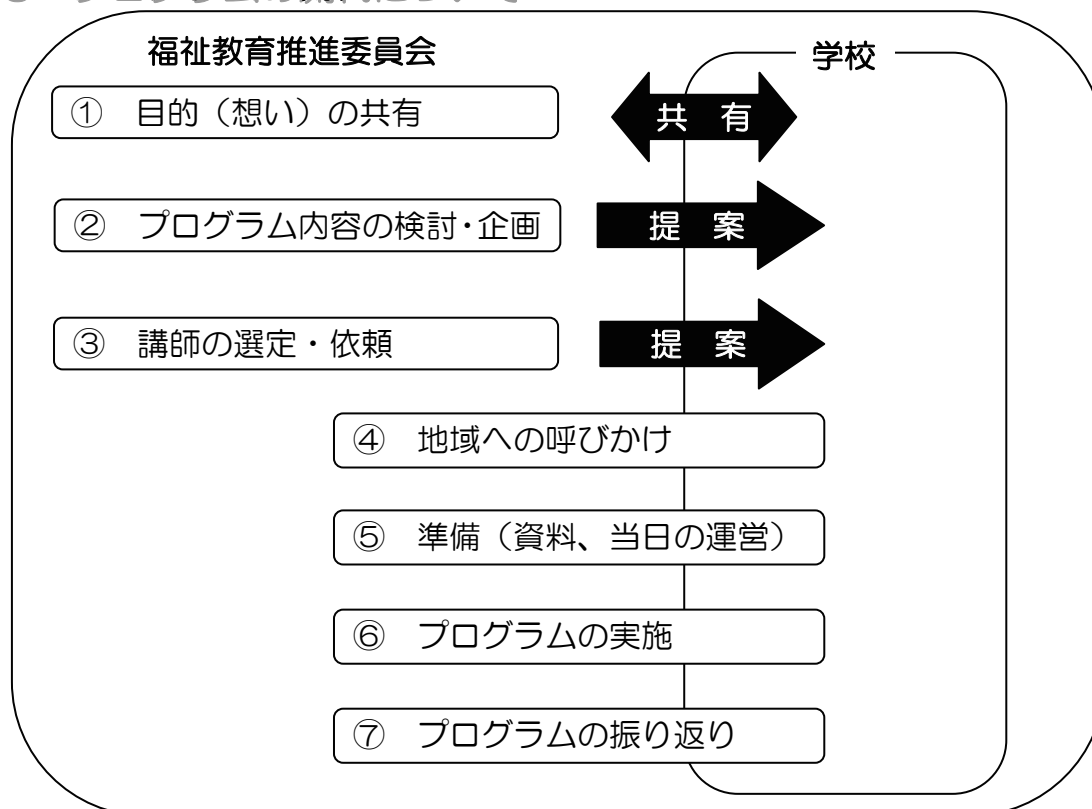
テーマ	対象学年	内容	講師例
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 家族の大切さ	2年生	「生命の授業」おへそのひみつ 赤ちゃんの人形を用いて、おへそにはどのような役割があるか学ぶ。 母親から子どもへ赤ちゃんの頃の手紙を書いてもらい、子を想う親の 気持ちを伝え、自分の大切さ、家族の大切さを学ぶ。	豊富小学校養護教諭
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 家族の大切さ 他者の大切さ	2年生	自分の「誕生」を通して、「命の大切さ」「自分の大切さ」を実感させる。 また、自分は周りの人に大切にされてきたからこそ、ここまで成長 できたのだということを再認識する。	福田紀恵 氏 (誕生学アドバイザー)
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 家族の大切さ 他者の大切さ	2～6年生	胎児の様子や出産までの様子を学び、自分や他者の命の大切さを学 ぶ。	助産師(山梨県助産師会)
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 他者の大切さ	2～6年生	義足のハイジャンパーの鈴木徹氏を招き、障害に向き合い努力をして いく姿勢や自分の可能性を信じることの大切さを学ぶ。	鈴木徹 氏 (駿河台大学男子ハンドボー ル部監督)
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 家族の大切さ 他者の大切さ	3年生	救命活動の様子を知り、命の尊さを感じる。	地域住民(消防士)
命の大切さ・平等性 自分の大切さ	4年生	視覚障害者に学ぶ。 「盲導犬との生活、点字習得について」 「スルーネットピンポンにかける生き甲斐」	矢崎繁 氏 堀口俊二 氏、古川勝彦 氏

テーマ	対象学年	内容	講師例
他者の大切さ	4年生	視覚障害者の生活の様子やそれを支える人の活動から思いやりやさしさの心を学ぶ。	障害者 ボランティア
命の大切さ・平等性 自分の大切さ	4～6年生	星野道夫氏が写したアラスカの動物たちや植物の写真に囲まれ、同氏との出会いのエピソードや自分の信じた道を進んで行くことの大切さなどを伝える。	高橋真理子氏(県立科学館 天文担当学芸員)
命の大切さ・平等性 他者の大切さ	5年生	美しく神秘的なものへの憧れ。音楽を求め続ける生き方に学ぶ。	清田愛未氏、郡正夫氏
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 他者の大切さ	5～6年生	いじめの悲惨さや仲間の大切さを学ぶ。文字を用いて、子どもたちへメッセージを送る。	杉浦誠司氏(文字職人)
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 家族の大切さ 他者の大切さ	6年生	赤ちゃん抱っこ体験等を通し、命の大切さを学ぶ。	新藤京子氏
命の大切さ・平等性 他者の大切さ	6年生	新潟柏崎地震をテーマにボランティア活動の意義を学ぶ。	学校教職員 社協職員
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 家族の大切さ 他者の大切さ	6年生	「いきるー緩和病棟の現場からー」 緩和ケアの入院施設でもある玉穂ふれあい診療所での「いのち」のやりとりについての話等を通して「いのち」とは何かについて考える。	長田牧江氏 (どちペインクリニック玉穂 ふれあい診療所 統括看護 師長)
命の大切さ・平等性 他者の大切さ	6年生	単にバスやタクシーの乗り物の技術的な改良でなく、「こころのユニバーサルデザイン」の視点を導入し、福祉のこころを醸成する。	車椅子利用者 社協職員

中学校

テーマ	対象学年	内容	講師例
命の大切さ・平等性	1～3年生	<p>出生するときの思い、戦地での生々しい現実、終戦後はすぐ日本に帰れずシベリアに2年も抑留され、ひどい寒さと食べ物の無い中で重労働を強いられた等、本人が実際に体験した戦争の話を基に「命の大切さ」について学ぶ。</p> <p>「人命救助体験」 講師が中心となり実施している子育てサークルの帰り際、参加者の方が川で溺れている人を発見。慌てて駆けつけ水面に浮いていた幼児を救出し心肺蘇生法を試み、見事人命救助に成功した体験談。</p> <p>また、自身の教職人生から、人命、特に子どもへの命は「何としても守らなくては」という強い思いがあることや幼少期の体験を交え、生命の尊さ、自他の生命の大切さを学ぶ。</p>	<p>在原金造 氏(地域住民)</p>
命の大切さ・平等性 他者の大切さ	1～3年生	<p>「命をつないだセイダイモ」 江戸時代の大飢饉に際し、風水害に強く栄養価が高いジャガイモの栽培が広がった歴史を説明した上で、世界的に人口増加とともに食料不足が懸念されている中で食料の大切さを学ぶ。</p>	<p>佐藤稔 氏(地域住民)</p>
命の大切さ・平等性 他者の大切さ	1～3年生	<p>「命を育み慈しむ親子のコミュニケーション」 コミュニケーションや話の聞き方について会場全員でロールプレイ形式で考え、自分の気持ち「わたし」を主語に表現する方法、言葉のかけかたについて学ぶ。</p>	<p>小俣博 氏(地域住民)</p>
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 家族の大切さ	1～3年生	<p>赤ちゃん抱っこ体験等を通し、命の大切さを学ぶ。</p>	<p>藤森晴江 氏(地域住民)</p>
命の大切さ・平等性 自分の大切さ 家族の大切さ 他者の大切さ	3年生		<p>新藤京子 氏</p>

### 3 プログラムの流れについて



#### ① 「目的（想い）の共有」

学校側が何を求めているのか、子どもたちに何を学んでもらいたいのかを理解し、委員会としての想いを重ね合わせ、それをテーマとして共有します。

#### ② 「プログラム内容の検討・企画」

テーマが決定したらそのテーマに関する児童・生徒の現状や情報を整理し、プログラムを検討していきます。企画書を作成し、学校に提案することも効果的です。

#### ③ 「講師の選定・依頼」

プログラム内容の検討に合わせて講師の選定も必要です。専門的知識を持った講師にするのも有効ですが、社協のネットワークを活かし、地域で福祉教育を推進していくという視点から、地域の人材を講師として依頼するのも良いでしょう。

#### ④ 「地域への呼びかけ」

児童・生徒、保護者だけでなく、地域住民の参加も促していくことが重要です。学校としても取り組みを地域住民に理解してもらう良い機会ではないでしょうか。

既存の社協ネットワークの活用はもとより、新しい呼びかけルートを模索していくことも必要です。

#### ⑤ 「準備（資料、当日の運営）」

児童・生徒が感じること、保護者が感じることはもちろん違います。それぞれの目線から資料を作成しましょう。プログラム実施後の評価等に向けて感想用紙やアンケート用紙の準備もしましょう。

また、当日の運営について、学校の協力や児童生徒の関わり方についても確認をしておきましょう。

#### ⑥ 「プログラムの実施」      ⑦ 「プログラムの振り返り」

プログラムを振り返る場を設けましょう。実際の様子やアンケートを整理し、目的（想い）と照らし合わせてみます。次の取り組みへのヒントがうまれるかもしれません。

プログラムの企画から振り返りまでの流れは、上記のように整理されますが、実際にステップ通りに進んでいくとは限りません。

事実、学校の次年度計画は前年度内にほぼ決定しているため、新たなプログラムを学校に提案し、実施するには、前年度からの働きかけが必要になります。新たなプログラムを取り入れることが難しく、既に学校で予定されているものに委員会が関わるケースもあるでしょう。

そのような場合は、そのプログラム内容に旨味が出るよう、味付けしていくことが大切です。地域の福祉教育関係者がメンバーとして加わっているのですから、社協がそれぞれの特徴を理解し、活かしてより良い福祉教育が展開できるようにサポートしましょう。

## IV

### 1 福祉教育推進委員会のねらい

これまでの県内社協の福祉教育の取り組み方を見ると、『①社協が学校、地域と積極的に連携し、取り組んでいるケース』、『②学校の要望に応じて、福祉講座や疑似体験を実施しているケース』、『③夏休みを利用したボランティア体験・講座を実施しているケース』、『④ボランティア協力校として助成金を支給しているケース』、『⑤福祉教育関係の取り組みは何も実施していないケース』が挙げられます。なかでも、②、③、④のケースが最近の取り組み方として多い状況にあります。また、こうした取り組みの中には他の団体等との連携が少ないため、あまり変化のない内容のまま事業を継続してしまったり、事業の評価がされず単発で終わったりしてしまう傾向にありました。

こうした状況からもう一度、これまで取り組んできた福祉教育のあり方について見直す機会が必要ではないでしょうか。

子どもを育てるのは家庭や学校だけでなく、地域もその役割を担っているはずで、では、地域が一体となった福祉教育推進の取り組みを誰が後押しするのでしょうか。市町村社会福祉協議会にその役割が期待されているはずで、

地域住民と一緒に福祉教育を推進していくためには、本事業の活動推進母体である福祉教育推進委員会の存在が大変重要です。

#### (1) 活動推進母体としての福祉教育推進委員会の役割

本事業における福祉教育推進委員会は、家庭・学校等を含めた地域が主体となった福祉教育の推進を目的として地域の福祉教育関係者で組織されます。

また、企画・準備・運営・評価、今後の展開についての検討を行い、活動推進母体としての役割を果たします。

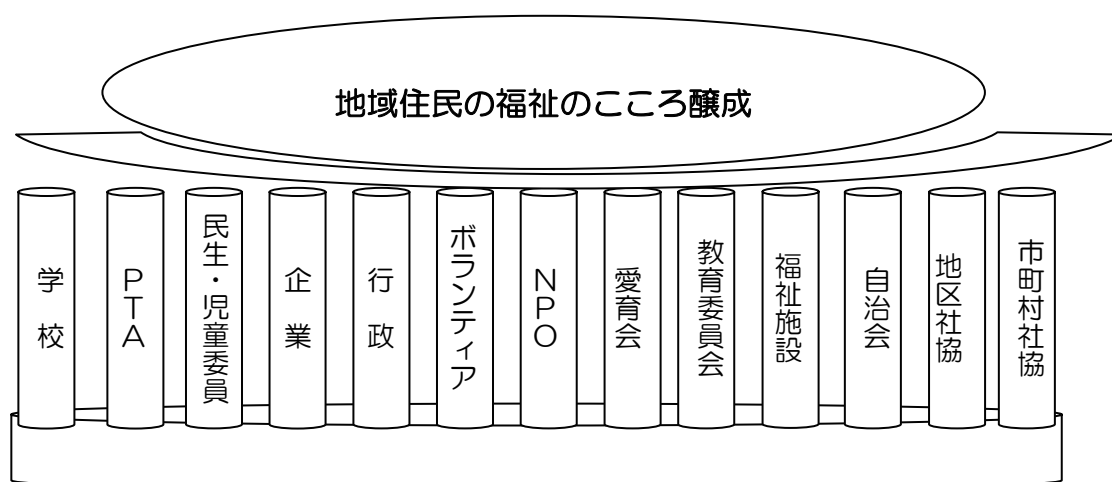
## (2) 関係機関との連携強化

これまでの福祉教育のように個別に取り組む方法では、内容の変化に乏しいため、事業継続していくことが困難になってきます。

「福祉のこころ醸成事業」では関係機関で組織された福祉教育推進委員会として事業に取り組むため、内容に変化のある事業の継続や様々な視点からの事業評価を行うことができます。

## 2 構成メンバーについて

構成メンバーについて、各地域の考え方で様々な構成が考えられます。地域にある資源を活かし、福祉教育に携わる人達の力を「福祉のこころの醸成」に向けて結集するイメージで委員会メンバーを構成していきましょう。



### (1) 学校

本事業では、児童・生徒を対象とする「福祉のこころ醸成プログラム（<sup>いのち</sup>生命の授業）」をきっかけとして、地域における様々な活動へ展開していきます。その点で、学校の協力を得ることは前提条件であり、効率的・効果的な事業展開に必要です。

既に学校全体で協力してもらえそうな関係づくりができていればスムーズに進みますが、そこまでの関係にいたってない場合ももちろんあるでしょう。そのような場合は、まず、学校についての状況把握に努め、学校を理解し、信頼関係を築いていくことが必要不可欠です。

## (2) 社会福祉協議会

地域が一体となって「福祉教育」に取り組んでいくためには、そのスイッチを押す推進役（事務局）が必要です。「地域福祉の推進」が使命（ミッション）である社協には、福祉教育を推進していくことの必要性とその効果に関係者へ伝えながら福祉教育推進委員会の黒子役として、事業をコーディネートしていくことが期待されます。

## (3) 企業

企業も地域の構成メンバーであり、社会的責任（CSR）を果たすことが期待されています。このような視点からも企業の社会貢献活動を活かし、協働していくことで、福祉教育の展開に必要な社会資源になり得ます。

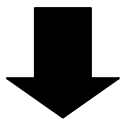
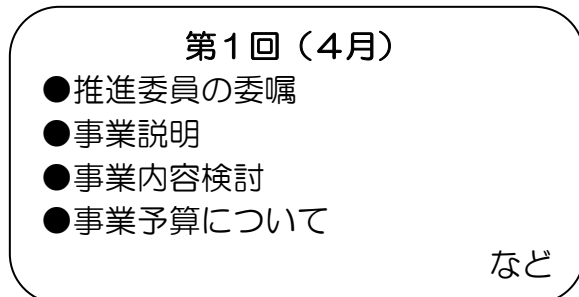
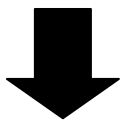
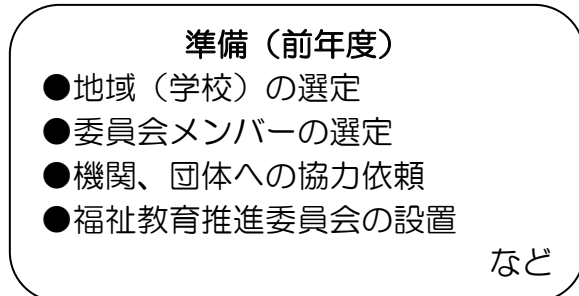
## (4) 地域における福祉教育関係者

子どもを育てるのは学校・家庭だけではなく、地域もその役割を担っています。自治会、ボランティア、NPO等の社協のネットワークを活かしたメンバー構成と同時にそれまで関わりのなかった地域の組織・団体等にも目を向けていくことが求められます。地域の福祉教育の協力者を発掘し、参加してもらいましょう。参加した人達もまた、「福祉のこころ醸成事業」を通し新しい発見や気づきを得て、活動の幅が広がるのではないのでしょうか。

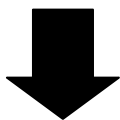
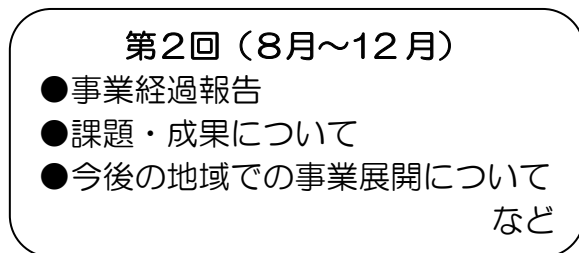


### 3 福祉教育推進委員会の円滑な運営方法

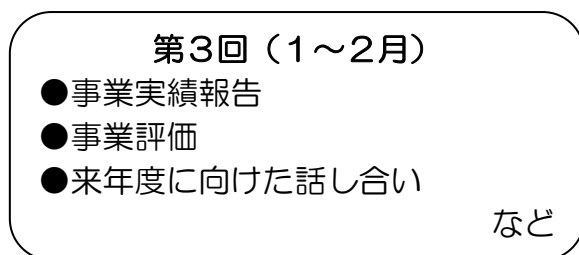
#### (1) 期日



委員会での意見を取りまとめ、事業計画に基づいた、事業の実施を図りましょう。



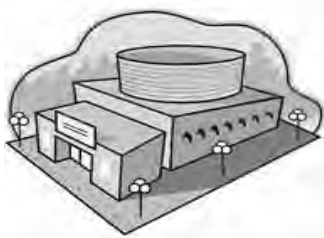
事業内容に課題点や変更点があれば、必要に応じて委員会を開催し、メンバーとの協議・調整を行いましょう。



## (2) 会場

- 社協の会議室
- 学校の会議室
- 公民館

など



## (3) 「福祉教育推進委員会」開催のサイクル

### ① 協議内容検討

まずは、社協内部で協議内容を検討していきます。あらかじめ、学校や地域の情報を収集しておきましょう。

### ② 準備（資料、当日の運営）

当日の資料について、統計資料や図を効果的に用いましょう。

### ③ 委員会の開催

委員会では活発な意見交換ができるような雰囲気づくりを行いましょ。

### ④ 協議内容の確認・整理

委員会で決まった内容を確認・整理し、委員へ報告しましょう。

同時進行

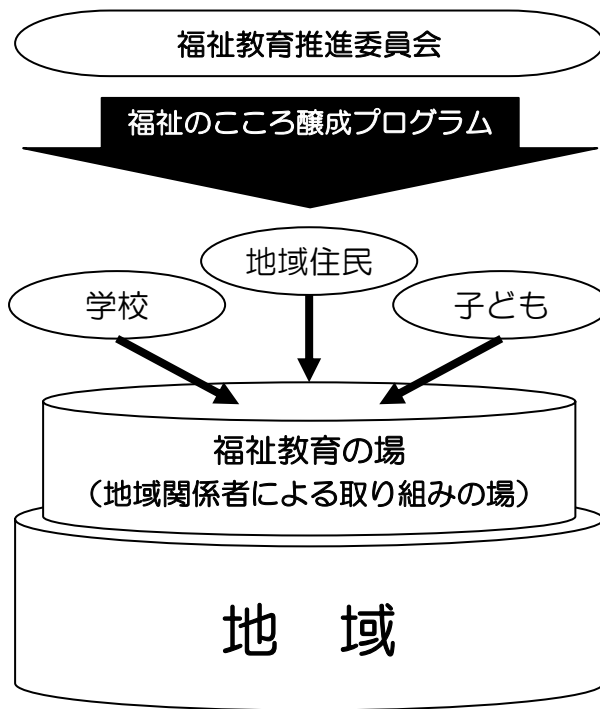
日程・会場調整

日程・会場決定

出席依頼

## 1 取り組みの意義

「<sup>いのち</sup>生命の授業」やその他の福祉講話等で福祉のこころを学んで完結してしまうと、その学びは一時的なものとなり、「福祉のこころ醸成事業」としては十分ではありません。地域での福祉教育、地域福祉の推進には、もう一步踏み出すことが重要です。プログラム自体はあくまでもその一步を踏み出すきっかけであり、プログラムを通して子どもや大人が感じ、学んだことを実際に地域の中で、関係者が連携して実践していくことが重要です。また、その実践の企画・検討は福祉教育推進委員会が担います。



実践に移行する中では、地域に実際にある課題や問題を解決していくことに目を奪われがちですが、「福祉教育」や「地域福祉活動」を地域に直接働きかけて実践している例は多くあるはずです。例えば、「ボランティアによる子どもたちへの絵本の読み聞かせ」、地域の高齢者

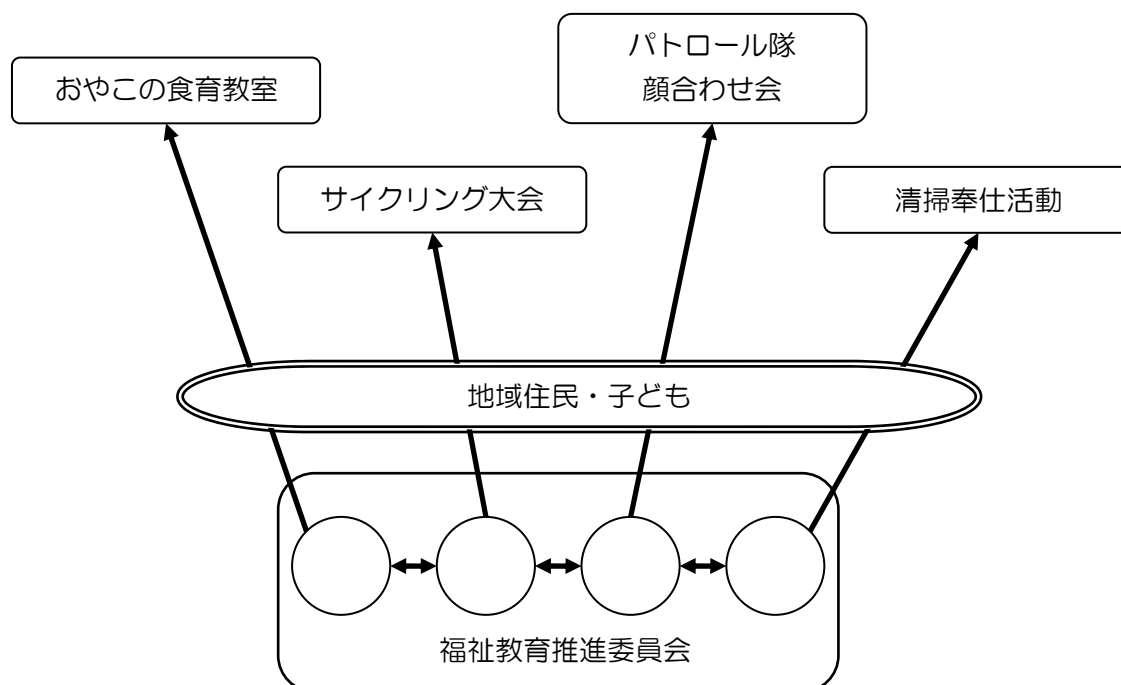
が気軽に集える「いきいきサロン活動」、「福祉施設との交流活動」などアンテナを張れば様々な取り組みが情報として入ってくるでしょう。このような既実践されている取り組みをさらに広く、深く根付かせようとするのもひとつの方法になるでしょう。

福祉教育推進委員会は、福祉教育・地域福祉の推進という目的を持って組織されています。そのネットワークを活かし、地域というフィールドに福祉教育の場（地域関係者の連携による取り組みの場）を設け、そこに学校・子ども・地域住民の参加を得て、地域が一体となって「福祉のこころ」を高めていきましょう。

## 2 取り組みの具体的事例

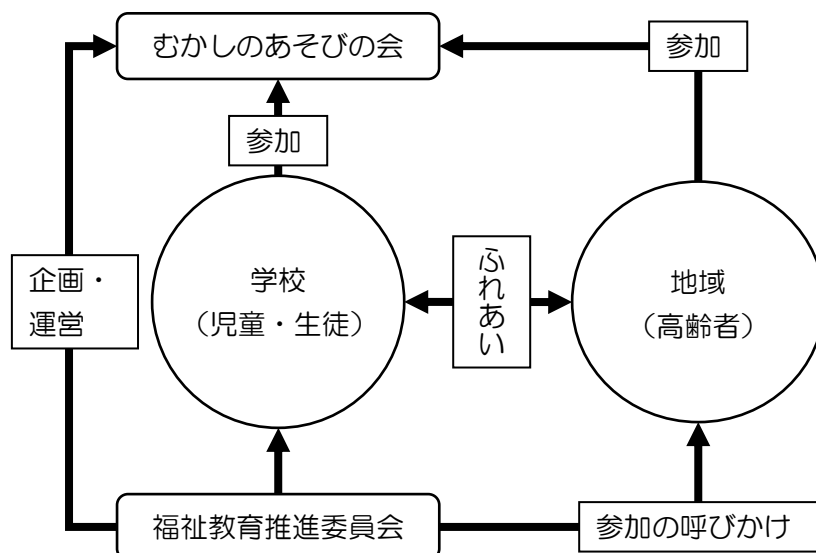
### (1) 玉諸地区（甲府市）福祉教育推進委員会の事例

もともと地区社協やその他団体の活動が活発なこの地域では、地域の大人や子どもが体験を共にする機会が多く設定されています。これまでは、それぞれの団体独自で取り組んできた活動を他の団体にも周知、協力してもらうことで、活動の幅の広がりや新たなネットワークの構築が期待されます。



## (2) 笛吹市福祉教育推進委員会の事例

笛吹市の福祉教育推進委員会(通称 ふえふき・ふくし学びのひろば)では、「むかしのあそびを楽しむ会」を企画しました。企画内容には委員からスタンプラリー等アイデアが出されたり、地域の高齢者への呼びかけも委員会のメンバーが行いました。当日は、高齢者や地域の民生児童委員が先生となり、めんこやあやとり、こま回しなどを一緒に楽しみながら、昔の遊びを子どもたちに伝承しました。日頃、なかなかふれあう機会のない場を提供したこと、学校を敷居の高いイメージから開放された学校というイメージに変化させたことは、大きな意義があります。



これらのように、福祉教育推進委員会メンバーの積極的な参加や働きかけによって、多様な取り組みが期待されます。

また、活動の維持・継続・発展、主体的な活動へつなげるための仕掛けとして、住民自身が必要性を感じ、地域の状況を汲んで取り組みを進めることができるよう、必要な支援や次の活動へのモチベーション維持への支援が求められます。

自分たちの地域(福祉)課題を共に考え、学びあい、解決していく地域福祉活動の担い手(主体)へと変化・成長していきましょう。

## 1 評価の考え方

「Ⅱ. 福祉のこころ醸成事業のフローチャート (P. 3)」や「3 福祉教育推進委員会の円滑な運営方法 (P. 14)」にあるように、事業の区切りや終了の時期に「課題・成果の確認」や「事業評価」を行うことは大変重要です。評価を行う際に、まずは「事業実施の結果、期待していた効果は得られたか」に焦点が当たります。福祉のこころ醸成プログラムの実施によって期待する効果は、「1 事業の目的・方法・効果 (P. 1)」に示されている通りです。

しかし、期待された効果が得られたかどうかだけではなく、「事業実施の過程でどのようなよいことがあったか」に気づくことや「期待していた効果は十分に得られなかったが、どのように事業の実施方法を見直せばより効果的な事業になったのか」を話し合い、次年度以降の事業内容および運営方法の見直しを行うことも大切です。

事前に効果測定の方法を検討し、事業実施前と実施後で地域住民にどのような変化が見られたのか、確認できるようにしておくことなどが必要です。次に、評価の具体的な方法の例について、様々なプログラムの目的ごとにお示ししたいと思います。

## 2 評価の具体的な方法

(1) 「<sup>いのち</sup>生命の授業」を受けた子どもたちの「福祉のこころ」の評価

「福祉のこころ」とは何かについては、「Ⅲ 福祉のこころ醸成プログラム (生命の授業) について」の「1 『福祉のこころ』とは・・・(P. 4)」に示した通りです。この福祉のこころを測定するという事は難しく、妥当性が検証された測定方法はありません。

そこで、「福祉のこころ評価指標 46 項目（平成 20 年度報告書）」を作成しました。項目については今後も引き続き検討が必要ですが、中学生に対して行われた調査データをもとに測定に有効と考えられる項目を検討し、別表の 10 項目を抜粋しました。

別表：福祉のこころ評価指標項目（抜粋）

No	質問項目	構成要素
1	自分は親に見守られていると思う	命のつながりと大切さ、平等性の理解
2	親にいつも感謝の気持ちを持ち続けたいと思う	
3	親が自分を注意するのは、大切にしてくれている証拠だと思う。	
4	過去から受け継いだ命を、未来の命につなげたいと思う。	
5	親や先祖から命を受け継いでいることを誇りに思う。	
6	人はみんな、素晴らしい力を平等に持っていると思う。	
7	自立のために、料理や洗濯をしたいと思う。	自分と他者の力への気づき
8	自分にはみんなに負けない長所があると思う。	
9	人が誰もが強いところを持っていると思う。	
10	周りの人が命を大切にするようになるために、自分にできることをしたいと思う。	

それぞれの項目について、「1. 全く思わない」、「2. 思わない」、「3. あまり思わない」、「4. 少し思う」、「5. 思う」、「6. すごく思う」のどれに当てはまるかを児童生徒に質問し、数字を合計することで得点を算出します。これを「<sup>いのち</sup>生命の授業」の事前・事後で実施し、各児童生徒の事後の得点から事前の得点を引くと、「<sup>いのち</sup>生命の授業」の前後で質問項目への回答に変化があったかどうかを確認できます。

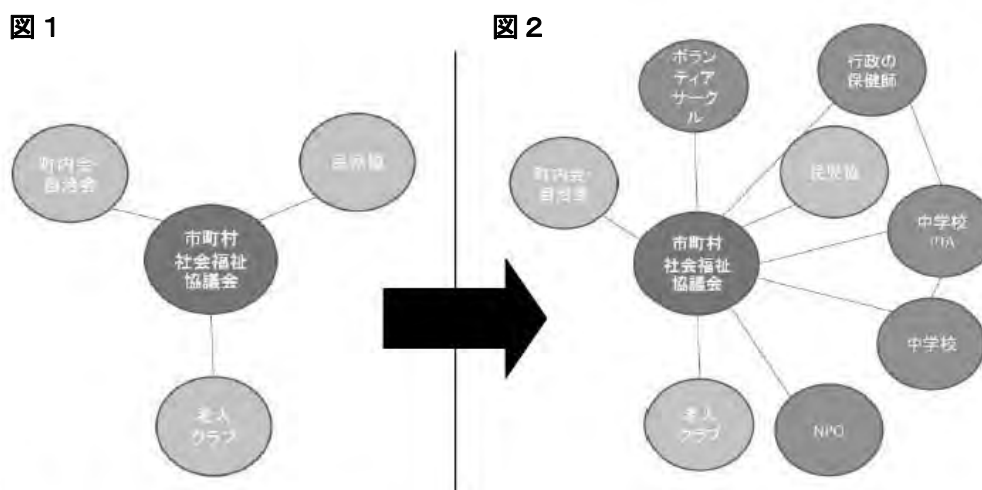
これらの質問項目とは別に、児童生徒の福祉のこころ醸成の効果測定にふさわしいと認められる（例えば、「地域行事への参加意向」や「ボランティア活動への参加意向」など）を「<sup>いのち</sup>生命の授業」の前後に質問し、その回答の変化をみる方法もあります。効果測定のための質問項目については、福祉教育推進委員

会で「<sup>いのち</sup>生命の授業」の内容を検討する際に、どのような質問項目で児童生徒の変化を把握するか、検討することも有益です。委員間でプログラムの目的を共有することにもつながります。

どの程度の変化があれば、「<sup>いのち</sup>生命の授業」に福祉のこころ醸成の効果があつたと認められるかについては、その都度検討が必要ですが、前後の変化を見える形で確認しておくことが必要です。

## (2)市町村社会福祉協議会を中心とした地域におけるネットワーク拡充の評価

事業に取り組んだ社会福祉協議会にとって、地域におけるネットワークを拡充する機会になることが、本事業の実施に期待されています。この効果について、視覚的にわかりやすく評価する方法として、次の図のように表す方法があります。事業開始前に、社会福祉協議会の福祉教育に関する事業において連携している地域の人材や組織、機関を円で囲み、線をつなぎます(図1)。そして、事業終了時に現状把握の機会を持ち、再び図を作成します(図2)。



強い信頼関係によって結ばれていると判断される場合は太い線、関係がまだ弱いと判断される場合は点線、関係が悪いと判断される場合にはギザギザの線



で結ぶなどの工夫を加えると、組織・機関間の関係性も合わせて把握できる図が作成できます。

### (3)「地域関係者の連携による取り組み」の評価

地域関係者の連携による取り組みは、その取り組みがスタートしていること自体が、福祉のこころ醸成プログラムの実施による成果ともとらえられます。加えて、その地域関係者の連携による取り組みが、地域住民の福祉のこころ醸成の効果を生み出すことが期待されます。

地域単位で考えた場合、何がどのようになれば、地域住民の福祉のこころが醸成されつつあると考えることができるでしょうか。具体的には、「地域行事やボランティア活動に参加する方の数が増えた」、「新しく地域に暮らすようになった住民の顔が見えるようになった」、「サロン活動や育成会活動の担い手を確保できるようになった」といった地域の変化について、福祉教育推進委員会などで振り返り、委員間でその実感を共有できるかどうか、検討することも重要な評価の一つの方法です。

このように事業の成果を確認し合うことは、次年度の事業へのやる気を引き出すことにもつながり、その後の活発な事業展開に向けて有効です。

VII  
平成23年度の  
実践事例

1	都留市社会福祉協議会の取り組み	25
2	韭崎市社会福祉協議会の取り組み	29
3	南アルプス市社会福祉協議会の取り組み	35
4	甲斐市社会福祉協議会の取り組み	39
5	上野原市社会福祉協議会の取り組み	43
6	甲州市社会福祉協議会の取り組み	50
7	市川三郷町社会福祉協議会の取り組み	53




# 1 都留市社会福祉協議会の取り組み

## 1 福祉教育推進委員会の構成と開催

委員構成	1 都留第一中学校ボランティア担当教諭 2 都留第二中学校            " 3 東桂中学校                " 4 市保健師 5 住職（学識経験者） 6 社会福祉施設担当者 7 読み聞かせボランティアグループ代表 8 社会福祉施設担当者 9 読み聞かせボランティアグループ代表	10 都留市ボランティア連絡会会長 11 地区社協会長 12 介護保険事業所担当者 13 福祉課 14 主任児童委員 15 教育研修センター教員 16 保育士 17 都留文科大学地域交流研究センター
開催期日	討 議 内 容	
随時開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生のボランティア体験学習企画検討会議</li> <li>・ 社会福祉施設職員との打ち合わせ会議</li> <li>・ 保健師との打ち合わせ会議</li> <li>・ 地域子育て支援ネットワーク会議</li> <li>・ 企画検討会議</li> <li>・ 禾生地区社会福祉協議会定例会</li> <li>・ 文大ボランティアひろば</li> </ul>	

## 2 福祉のこころ醸成プログラム実施内容（生命の授業）

期 日	平成23年8月2日（火）	
会 場	いきいきプラザ都留	
内 容	東桂中学校 24 名 ○ボランティア学習① ボランティアの心 「自分の命の道のり」 ○ボランティア学習② 読み聞かせ「もったいないばあさんと考えよう世 界のこと」 ○ボランティア学習③ 法話「生きること」 ○デイサービスセンター利用者と中学生とのふれあい活動	

期 日	平成23年8月3日 (水)
会 場	都留第一中学校
内 容	<p>都留第一中学校 71 名</p> <p>○ボランティア学習① ボランティアの心 「自分の命の道のり」</p> <p>○ボランティア学習② 読み聞かせ「もったいないばあさんと考えよう世界のこと」</p> <p>○ボランティア学習③ ボランティアの基礎知識</p> <p>○回生荘の利用者と中学生とのふれあい活動</p>



期 日	平成23年8月5日 (金)
会 場	いきいきプラザ都留
内 容	<p>都留第二中学校 62 名</p> <p>○ボランティア学習① 実体験手記の朗読</p> <p>○ボランティア学習② 読み聞かせ「もったいないばあさんと考えよう世界のこと」</p> <p>○ボランティア学習③ アイマスク・ガイドヘルプ体験</p> <p>○みとおしの利用者と中学生とのふれあい活動「かかしコンテスト」</p>



### 3 地域関係者の連携による取り組み

期 日	平成23年10月8日(土)
会 場	いきいきプラザ都留
参 加 者	55人(都留第二中学校文化部生徒、禾生地区高齢者、障害者福祉サービス事業所みとおしの利用者、都留市デイサービスセンター利用者)
内 容	都留第二中学校(文化部)地域交流活動 ○家政部：折り紙、お手玉づくりによる交流 ○美術部：キーホルダーづくりによる交流 ○吹奏楽部：吹奏楽の発表

期 日	平成24年1月28日(土)
会 場	都留文科大学
対 象 者	教育関係者、一般市民 110名
内 容	<p>第8回地域交流研究フォーラム</p> <p>テーマ「大田堯先生とともに考える“生きる”こと、“学ぶ”こと、そして未来へ…」</p> <p>○基調講演としてドキュメンタリー映画「かすかな光へ」の上映</p> <p>○懇話会「大田堯先生をお迎えして」 映画・教育・福祉等についてステージ・客席とともに気軽に話す。 初等教育学科教授、富士・東部教育事務所職員、谷村第一小学校教員、都留市社会福祉協議会会長</p>



#### 4 よかった点（取り組みを通しての成果）

- 関係者が共通の目的を持ち新たに「生命の授業」や「地域交流事業」などプログラム開発ができた。
- 様々な組織・個人、関係者の協力が得られた。保健師、子育てサークル、読み聞かせボランティア  
NPO法人、社会福祉施設、介護保険事業所、視覚障害者協会、地区ボランティアコーディネーター  
保護司、地区社会福祉協議会
- 皆が子どもたちのことを真剣に考えている現状が把握できた。
- 福祉のこころ醸成事業の重要性を再認識した。
- 地域社会の中で福祉教育を重要視し強化する気運が高まった。

#### 5 問題となった点（取り組みを通しての課題）

- 既存のプログラムに中学生を対象にした事業があったので導入したが、全員ではなくその事業に参加する子どもに限られてしまう。学校の授業や行事に盛り込むことができないか方向性を検討する。
- 社会福祉協議会の職員に保健師がいない為、指導者の人員体制づくりについて模索し都留市の保健師に協力要請した。保健師の役割りとしては適任者であると思うが、学校教育の中で保健体育や性教育など強化していただきたいという意見もでている。その点について関係者と協議する。

#### 6 今後に向けての抱負等

- 福祉のこころ醸成事業を地域の中に根付かせる。
  - ①福祉教育推進委員会を設け幅広い方々と協議する。そのネットワークを実践に活かす。
  - ②福祉のこころ醸成プログラム「生命の授業」を推進する。
    - ・健康推進課との連携による授業を確立する。      ・対象者の年齢を検討する。
    - ・生命の授業に対する共通認識を広げる。  
(学校教育における性教育と混同、授業の趣旨について理解を得る。)
    - ・保護者と共に学べる機会を設ける。
    - ・地域の子どもが成長過程において一度は必ず「生命の授業」が学べるようにする。
  - ③地域で関係者が連携しての事業を推進する
    - ・教育現場のことをよく知る。      ・社会福祉協議会のことをよく知ってもらう。
    - ・地域の動きを敏感にキャッチする。      ・日頃の相談援助業務をしっかりと行う。
    - ・社会福祉協議会の幅広いネットワークを活かす。      ・多彩なプログラムを開発する。

## 2 韮崎市社会福祉協議会の取り組み

### 1 福祉教育推進委員会の構成と開催

委員構成	1 穂坂小学校校長 2 穂坂小学校PTA会長 3 穂坂町代表区長 4 穂坂町民生委員児童委員協議会会長 5 穂坂町公民館長	6 穂坂町老人クラブ会長 7 穂坂町育成会会長 8 地区社協 3名 9 韮崎市社会福祉協議会事務局長 10 韮崎市社会福祉協議会職員
開催期日	討 議 内 容	
7月13日	事業の説明、事業計画について、各種団体との連携について	
2月 8日	実施報告 事業内容とその成果について	

### 2 福祉のこころ醸成プログラム実施内容「生命の授業」

期 日	平成23年12月 2日（金）
会 場	穂坂小学校 各教室
内 容	<p>「いのちの授業」 講師： 山梨県助産師会会長 榊原まゆみ先生 参加児童： 5・6年34名 保護者 地域の方31名 計65名</p> <p>自分にとってかけがえのない「命」の始まりと母親のお腹の中での育ち方を知るところから学習が始まった。お腹の中の赤ちゃんの成長については、実物大の人形を抱える体験により、大きさと重さを実感することができた。また、赤ちゃんの心臓の音を聴く活動を通して、「命」の重みを感じ取ることができた。</p> <p>男女の体のちがいについても、正しい名称や知識として知ることができた。</p> <p>さらに、代表児童が出産模擬体験教材を使って、生まれてくる体験をしたことで自分も周りの人たちも、それぞれ頑張ってきたことを知り「自尊心」や「自他のいのちを大切に生きていく気持ち」を高める授業となった。</p> <p>「せいっぱい生きる」 指導者： 4学年担任 養護教諭 参加児童： 4年16名 保護者 地域の方 24名 計40名 資料「電池が切れるまで～子ども病院からのメッセージ～」 スズランの会編 角川書店</p> <p>はじめに、資料から「いのち」の詩を紹介し、次に、限られた命を明るく前向きに生きた主人公について話し合った。児童は、資料や話し合いから、生きたくても生き</p>





られない命があることを知り、主人公の生き方から、自分に与えられた命を精一杯大切にしようとする心情を高めることができた。



「赤ちゃんが生まれるまで」

指導者： 3学年担任

講師： 韮崎市保健師 山口知絵先生

参加児童： 3年19名 保護者 地域の方 22名 計41名

道徳教材「おばちゃんがんばれ」を読んで感想を話し合い、保健師さんのお話を聞いて、赤ちゃんをお腹の中で育てることの大変さを知ることができた。

次に、児童一人一人に宛てた「お家の人からの手紙」を読み、自分が生まれてきたときの家族の喜びや期待を知ることができた。一人一人が、自分がかげがえのない存在であることを実感できた心温まる授業であった。



「たんじょう日」

指導者： 1・2学年担任



講師： 韮崎市保健師 内藤静香先生





参加児童： 1・2年26名 保護者33名  
計 59名





はじめに、ビデオ教材「ぼくの生まれた日（ドラえもん）」を視聴し、誕生したときの家族の喜びや、自分の名前が付けられた由来を知った。次に保健師さんのお話を聞き、自分もがんばって生まれてきたこと、一人一人大切な命をもっていることを知ることができた。



### 3 地域関係者の連携による取り組み

期 日	平成23年 6月10日 (金)
会 場	穂坂小学校 各教室及び体育館
内 容	<p>授業参観</p> <p>講師・団体：朗読表現「葦崎さきさざなみの会」、「ひびきの会」、「葦鼓一打会」</p> <p>参加児童：全校 95名 保護者 69名 計 164名</p> <p>1・2年：国語 1年教室にて朗読表現「葦崎さざなみの会」による朗読、エプロンシアターを見て、民話の世界を味わったり、手遊びを通して言語活動に親しんだりした。</p> <p>「葦崎さざなみの会」は、20年前に発足し任意で集まった地域ボランティアで形勢され、現在は8名で活動をしている。</p>  <p>3・4年：国語 3年教室にて地域ボランティア「ひびきの会」により、山梨の方言の良さを学び、大型紙芝居を鑑賞し、葦崎のシンボルである「窟観音物語」の世界を味わった。</p> <p>「ひびきの会」は、要請に応じて小・中学校・幼稚園等に出かけ、15年間活動をしている。輿石まさゆき先生を講師にお招きし、葦崎中央公民館定期的に活動を行っている。</p>  <p>5・6年：音楽 体育館にて、「葦鼓一打会」による三宅太鼓の演奏の鑑賞と体験教室を行い、日本の伝統楽器である和太鼓に親しんだ。</p> <p>勇壮な演奏に皆真剣に聴き入り、演奏体験では、会のメンバーから一人ずつ丁寧な指導をしていただいた。</p> <p>「葦鼓一打会」は、葦崎中央公民館で年3回講座を行っていたが、講座終了後も会員の皆さんの「続けたい!」という意欲により、平成19年4月に発足し、葦崎市内に住む幅広い年齢のメンバーが活動している。</p>

<p>内 容</p>	<p>5・6年：音楽 体育館にて、「蕤鼓一打会」による三宅太鼓の演奏の鑑賞と体験教室を行い、日本の伝統楽器である和太鼓に親しんだ。</p> <p>勇壮な演奏に皆真剣に聴き入り、演奏体験では、会のメンバーから一人ずつ丁寧な指導をしていただいた。</p> <p>「蕤鼓一打会」は、蕤崎中央公民館で年3回講座を行っていたが、講座終了後も会員の皆さんの「続けたい!」という意欲により、平成19年4月に発足し、蕤崎市内に住む幅広い年齢のメンバーが活動している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>期 日</p>	<p>平成23年11月11日（金）</p>
<p>会 場</p>	<p>穂坂小学校 体育館</p>
<p>内 容</p>	<p>菊まつり  参加児童：全校 96名  招待者 保護者 地域の方 約180名  計 約280名</p> <p>菊まつりの成功に向け、菊の手入れ、作品の制作、合唱、学年の出し物、ブラスバンドの練習にと、6年生を中心に日々努力してきた成果が発表された。会場には丹精込めて育てた約200鉢の菊が飾られ、6年生のブラスバンド、5年生の菊づくりに関する発表、1～4年生の発表の他、作品展示もあり、地域住民との触れ合いを楽しむことができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

期 日	平成24年 1月15日(日)
会 場	穂坂小学校 各教室
内 容	<p>授業参観・ふれあい教室  講師：地域住民  参加児童：全校生徒 95名  保 護 者 地域の方：約200名 約 300名</p> <p>児童が、ものづくりを通じて家族、地域住民との交流を深めることを目的に「ふれあい教室」を行った。</p> <p>児童は、竹馬や和風、繭玉、お手玉等8つの教室の中から好きな教室を選択し、地元公民館のお年寄りらから指導してもらって、1時間50分かけて、親子で工作に取り組んだ。各教室で出来上がった作品は、体育館に展示したり、校庭で遊んだりして楽しんだ。</p> <p>昼食はおにぎりを持ち寄り、繭玉や穂坂小母と女教師の会の役員さん手作りの豚汁をいただいて、三世代の楽しい交流の時間となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>竹馬</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>和風</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>繭玉</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>お手玉</p>  </div> </div>

## 5 よかった点（取り組みを通しての成果）

- 助産師さんや保健師さん、養護教諭など、専門的知識を持つ方々を講師として、全校ぐるみで児童の発達段階に応じた「生命の授業」を実施できた。また、授業の様子を保護者や地域の方々にも参観していただき、命の大切さについて家庭での話題として広げることができた。
- 授業参観に、地域の朗読や太鼓演奏グループの活動を取り入れたことで、地域の伝統文化への興味・関心を高めることができ、保護者からも大変好評だった。
- 「菊まつり」では、子どもたちが学校での取り組みの成果を発表し、日頃お世話になっている方々への感謝の気持ちを伝えることができた。
- 「ふれあい教室」では、親子の触れ合いだけでなく、祖父母を含め地域の人々と触れ合いながら、物作りの技や工夫を学ぶことができた。地域の人々と顔なじみになることで、あいさつがしっかりできるなどの成果もある。
- 児童の健全な成長のためには、生命の大切さを教え、「学校・家庭・地域」がますます連携していくことが重要である。今年度「福祉のこころ醸成事業」の活用により、その取り組みが充実したことは、何よりの成果である。
- 児童同士の仲間意識ができており良かった。
- 昔は無かった「いのちの授業」を取り入れてよかった。
- 親達から、子供とニコニコ笑顔でコミュニケーションがとれて良かった。
- 穂坂小が地域の拠り所になっていて良かった。
- 自分の大切さを知る、色んな支えがある事で成り立っていることを知れて良かった。
- 身の回りの整理整頓が言われなくても出来ており良かった。
- 全国放送、新聞掲載されて韮崎市穂坂小学校の名が県内外の人に多く知れ渡って良かった。

## 6 問題となった点（取り組みを通しての課題）


- 授業の終了時には、意見交換会をしたほうがよい。

## 7 今後に向けての抱負等

- 予算に応じて充実した行事にしていきたい。

### 3 南アルプス市社会福祉協議会の取り組み

#### 1 福祉教育推進委員会の構成と開催

委員構成	1 甲西地区青少年カウンセラー 2 南湖第一保育所長 3 西南湖いきいきクラブ事務局 4 甲西老人クラブ会長・社協副会長 5 ふれあい会代表 6 甲西ボランティアの会代表 7 甲西地区災害防災ボランティア代表 8 お山の学校代表 9 社協評議員	1 0 甲西老人クラブ副会長・災害防災ボランティア副代表・社協評議員 1 1 かえでの会代表・社協評議員 1 2 甲西折り紙ボランティア 1 3 市健康増進課・甲西担当保健師 1 4 民生委員3名 1 5 南湖地区愛育班2名 1 6 社協甲西事業所 1 7 社協地域福祉課係長
開催期日	討 議 内 容	
6月8日(火)	第1回西南湖地区福祉教育委員会開催(報徳館) ・事業の趣旨説明 ・委員会メンバー紹介 ・事業計画協議 いのちの授業、地域関係者の連携による取り組み	
7月12日(火)	第2回西南湖地区福祉教育委員会開催(報徳館) ・いのちの授業、地域関係者の連携による取り組み検討	

#### 2 福祉のこころ醸成プログラム実施内容「生命の授業」

期 日	平成23年7月13日(水)	
会 場	西南湖第一保育所園庭・プレイルーム・滝沢川メモリアルパーク	
内 容	「本とあそぼう」 全国訪問おはなし隊による移動図書館、読み聞かせ	
		
期 日	平成23年7月29日(金)	
会 場	西南湖第一保育所プレイルーム	
内 容	「いのちの大切さを学ぼう」 地域ボランティアによる紙芝居&パルフェによる幼児向け音楽教育	
		

### 3 地域関係者の連携による取り組み

期 日	平成23年5月18日（水）10:00～11:30
会 場	西南湖報徳館（地区公民館）
内 容	<p>「おとしよりとなかよし」</p> <p>1 西南湖いきいきクラブ（老人クラブ）にお歌の披露</p> <p>2 西南湖いきいきクラブのみなさんと手品を見よう</p> 

期 日	平成23年9月7日（水）
会 場	安藤家住宅・西南湖第一保育所園庭
内 容	<p>「古いお家でわくわく会」「おまつり楽しいな」</p> <p>1 文化財「安藤家住宅」にて 西南湖いきいきクラブに茶道のお手前、お作法を習う、お年寄りから昔の話を聞く（報徳社の歴史）、折り紙</p>   <p>2 園庭でミニ祭り 綿菓子、ヨーヨー釣り</p> 



士になりたいです。魚の絶滅危惧種を調査したり、海の魚の種を調べたりしたいです。今も魚のインターネットで勉強中です。夢がかなうようにがんばりたいです。

体制を構築し、住民が利用しやすいシステムづくりを進めていきたい」としている。

### 園児とお年寄り 茶道などで交流

南ア

南アルプス市の南湖第一保育所は7日、同市の重要文化財・安藤家住宅で西南湖いきいきクラブのお年寄りとの交流会を開いた。

地域の世代間交流を目的に企画。園児約60人と同クラブや地域のボランティア団体のメンバーら約50

人が参加し、茶道Ⅱ写真Ⅱや折り紙を楽しんだ。お年寄りが昔懐かしい話をする場もあり、園児たちは興味深そうに聞き入っていた。

大木瑚都ちゃん(4)は「茶道は初めての体験だった。楽しかったし、お茶もおいしかった」と話していた。

昭和町議会が開会  
15案件を提出

昭和町議会は5日、9月定例会を開会し、会期を16日までの12日間と決めた後、角野幹男町長が総額3億6669万円の本年度一般会計補正予算など15案件を提出した。

一般会計補正予算案の主な内容は、太陽光発電システムの設置費補助金(420万円)、常永土地区画整理事業負担金(3370万6千円)や防災備蓄品の購入などの災害対策費(1029万9千円)など。

一般質問は9氏がが行い、災害対策や財政健全化などについて話した。

山梨日日新聞 h23.9.10

#### 4 よかった点(取り組みを通しての成果)

- 「南湖第一保育所の福祉教育を推進し、支援していくための会議を開催します」の呼びかけに、地元住民が嬉々として集まって下さった。参加者の統一した想いは、「(保育園児が)成長して一旦は都会に出ても、この地を懐かしく思い、やがて帰ってきてほしい」ということである。そのために、「地域の公民館・文化財等で、地元のおとなや高齢者と交流させたい。記憶に残る体験を積ませたい」という姿勢は、終始一貫していた。  
福祉教育推進委員会では、地域の子供たちの特徴や課題なども積極的に話し合うことができた。
- 保育園児にとっては、「たくさんの大人に支えられて生きている」ことを実感できた事業であり、未知の世界を体験できる機会にもなった。高齢者は園児との交流を喜び、地元文化財の見学に感激もしていた。ボランティアも使命感を持って努力して下さった。



## 5 問題となった点（取り組みを通しての課題）

- 事業指定からモデル校選定、計画立案までの時間が短く、年間計画の変更・追加に柔軟性がある保育所をモデル校に指定したが、福祉教育推進委員の協議が白熱したのは、園児の「福祉のこころ」をどのように醸成していけるのか、どの程度の内容までを理解できるのかということであった。
- 結果として、園児は高齢者世代との交流、ボランティアのサポートを通して、人と人とのつながり、絆の大切さを学んだようである。

## 6 今後に向けての抱負等

- 民生委員、老人クラブ事務局は、今後も保育園児の福祉体験の支援を申し出ており、ボランティアも、未来を担う子供たちの支援を申し出ている。地域人材の力が十分発揮できるよう、社協は裏方として支えていきたい。
- 当該保育所は、南湖第二保育所との統合がすでに決定しており、南湖小学校の近辺に開設される予定となっていることから、さらに小学生も交えての事業も期待できる場所である。事実、元民生委員を初めとして地域ボランティアが、学校関係者と定期的に連絡を取り合っている。

## 4 甲斐市社会福祉協議会の取り組み

### 1 福祉教育推進委員会の構成と開催

委員構成	1 甲斐市立双葉東小学校 校長 2 甲斐市立双葉東小学校 教頭 3 甲斐市立双葉東小学校 教務主任 4 甲斐市立双葉東小学校 PTA 会長	5 高齢者と子どもの帰り道ふれあい事業 地区代表者 6 社会福祉法人ひかりの里 理事長 7 甲斐市社会福祉協議会 会長
開催期日	討 議 内 容	
①8月23日 (火) 19:30~	①委嘱状交付 ②社協会長あいさつ ③校長あいさつ ④委員自己紹介 ⑤事業の目的説明 ⑥事業の内容説明	
②2月16日 (木) 19:30~	①事業報告 ②まとめ	



### 2 福祉のこころ醸成プログラム実施内容「生命の授業」

期 日	平成23年12月15日(木)・16日(金)・19日(月)
会 場	社会福祉法人「ひかりの里」
内 容	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人『ひかりの里』を訪問して、お年寄りとおふれあい、お年寄りを大切にする気持ちを育てる。</li> <li>・お年寄りが過ごしやすい環境に気付き、すべての人が気持ちよく過ごすことのできるバリアフリーについて考えるきっかけとする。</li> <li>・お年寄りの人生について考え、自分の生き方を振り返る機会を得る。</li> </ul> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習として、11月22日に『ひかりの里』職員の五十嵐さんをお招きして、①施設の概要、②お年寄りとの接し方について講義をしていただき、児童代表による「ふれあいタイム」のデモンストレーションを行った。その後、留意点を指導していただくことができた。</li> <li>・約3週間をかけて、各学級で話し合ったり準備を進めたりした。</li> <li>・「ふれあいタイム」の内容は、各班で考えさせたが、自己紹介(名札つけ)と童謡などの合唱は必ず入れることを指導しておいた。</li> <li>・手遊び歌、お手玉、花札、紙芝居、福笑い、折り紙、風船バレー、あやとり、クイズ、肩たたきゲームなど、バラエティーに富んだ内容が出された。</li> <li>・いろいろなアイデアが出て、楽しくできそうな気はしたが、もう少しかなかったら…ということ想定しておくように指導した。お年寄りの方があまり楽しそうでなければ、別のものをやったり、楽しんでくれたものをもう一回やったり、他の班から遊び道具を借りたりしてうまく対処するようにさせた。</li> <li>・当日は、どの学級も大変楽しく取り組めた。始まるまでは、緊張や不安</li> </ul>



があったようであるが、お年寄りの楽しそうな様子に一安心という子どもたちが大勢いた。また、行ってみたいという声も聞かれた。



### 3 地域関係者の連携による取り組み

期 日	平成23年10月24日（月）
会 場	双葉東小学校 北館1階 コモンスペース・1年各教室
内 容	<p>なかよし集会 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校でお世話になっている交通ボランティアの方々に、感謝の気持ちを伝える。</li> <li>・ふれあい活動を通して、お年寄りに対して温かな気持ちで接していこうという意欲を高め、さらには、お年寄りに対する尊敬の気持ちや、命を大切にしようとする気持ちを育む。</li> </ul> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始めの会では、お礼の言葉とともに、肩もみ・歌・手作りのメダルをプレゼントした後、交通ボランティアの方々のお話を聞いた。</li> <li>・給食の時間には、昔の学校の様子・昔の食べ物など、子どもの頃のお話をしていただきながら会食した。</li> <li>・掃除の時間には、会議室で休憩していただいた。その際、係の児童がお茶やお菓子をサービスしたり、音読発表をしたりした。</li> <li>・5校時には、それぞれの教室で電子黒板を使用した国語の授業参観を行った。</li> <li>・参観後は中庭に集合し、1年生児童と交通ボランティアの方々と一緒に下校した。</li> </ul>
	 

#### 4 福祉教育の取り組み

期 日	通年
会 場	双葉東小学校
内 容	<p>児童会（全学年）の取り組み 『心もポカポカ 一致団結 東小』</p> <p>○生活委員会の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動              どんなときでも、誰にでも笑顔ではっきりとあいさつできる学校を目指す。              学級ごとに、『あいさつリレー』の取り組みをする。</li> <li>・はき物をそろえよう運動              下駄箱に靴をきちんとそろえて入れる。              トイレのスリッパを、次の人がはきやすいように整えておく。</li> </ul> <p>○赤十字委員会の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き缶，ペットボトルキャップ集め</li> <li>・古切手集め</li> <li>・1円玉募金              集まったものは，社会福祉協議会，日本赤十字，児生連などに寄付として提出する。</li> </ul> <p>○栽培委員会の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花いっぱい運動              苗から草花を育てて，“みどり”を大切に育てる。              花壇，プランター，鉢などで育て，校舎内外のいろいろなところに“みどり”を配置する。</li> </ul>
	 

## 5 よかった点（取り組みを通しての成果）

- お年寄りとのふれあいをとおして、温かな気持ちや感謝の気持ち、お年寄りを尊敬する気持ちなどが育った。また、自分たちがとても大切にされていることも実感できた。
- 6年の事業では、事前に『ひかりの里』の五十嵐さんに講義をしていただいたので、ポイントが分かり、当日あまり困るような場面もなく、ふれあえることができた。
- 自分の生活を振り返り、バリアフリーについて考えるきっかけとなった。
- 児童会の活動では、子どもたちの自主的な活動が多く見られ、やさしい気持ちも育まれたと思う。

## 6 問題となった点（取り組みを通しての課題）

- 特に大きな課題は見つからなかったが、今後も続けていくことが大切なことだと思う。また、インフルエンザなどの感染症が流行ると予定通りに実施できなくなってしまうので、実施時期の選定と、健康管理・衛生管理には留意しておく必要がある。

## 7 今後に向けての抱負等



- 来年度以降の同額程度の予算確保は難しいので、甲斐市社会福祉協議会では以前から共同募金の配分金を活用し、ボランティア活動推進校に対して補助金を交付しているので、そちらを活用して継続していく予定。今回の双葉東小学校では、継続的に取り組んできている学習内容である。本事業のために、特別に組み入れた内容ではない。上にも記したように、これからも継続していくことはもちろん、更に深化させていきたい。

## 5 上野原市社会福祉協議会の取り組み

### 1 福祉教育推進委員会



委員構成	1 上野原市立島田中学校校長 2 上野原市立島田中学校担当教諭 3 上野原市立島田中学校PTA副会長 4 島田東区区長 5 島田地区民生委員・児童委員会長	6 子育てサークル代表 7 上野原市教育委員会教育長 8 上野原市役所福祉保健部部長 9 上野原市社会福祉協議会会長 10 上野原市社会福祉協議会事務局長
開催期日	討 議 内 容	
H23.5.27	福祉のこころ醸成事業について ①実施要綱について ②福祉推進委員について ③今後の日程について（年間計画）	
H23.10.22	事業報告・実施事業検討	
H24.1.27	事業報告・決算報告	

### 2 福祉のこころ醸成プログラム実施内容「生命の授業」

期 日	平成23年7月15日（金）
会 場	上野原市立島田中学校
内 容	<p>「人命救助体験」 講師：佐藤 稔 氏 対象：全校</p> <p>「人命救助体験」と題して講演を行いました。実際に水面に浮いていた幼児を救助し心肺蘇生法を試み、見事人命救助に成功した体験談。</p> <p>また、佐藤さんご自身、教職人生から、人命、特に子どもの命には「何としても守らなくては」という強い思いがあることや自身が幼少期に川に落ちておぼれ母親に命を救ってもらったこと。命の尊さ、自他の生命を大切にすること。体験を交え説得力のある講話をしていただきました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>[生徒感想]</p> <p>◇この授業を聞いて心にいちばん残ったことは、自分の命を大切に心を育てていくことです。佐藤さんも昔生徒と本気で向き合って生徒との関係がよくなったと言っていました。そんな風に他人と向き合うことで自分の心も育っていくと私は思います。これからは人を大切に、そして自分の心を大切にしていこうと改めて思うことができました。</p> <p>あと、もし事故に遭ってしまった人に遭遇したときは、その場で自分に何ができるかを考えたいです。そのために自分にできることを身につけておきたいです。3年 女子</p> <p>◇佐藤さんのお話を聞いてすごいと思ったことは、人を助けたことです。そこまでにいたる経験が繋がっていてドラマのようでびっくりしました。人の呼吸が止まり意識がなくなると体がへなへなになると聞いたとき、正直気持ち悪いと思いました。僕は消</p>

	<p>防士になりたいと思っているので、なったらこういうことを経験するんだな～と思いました。子ども思いの佐藤さんはとてもいい人だと感じました。 3年 男子</p> <p>◇今日僕が佐藤さんのお話から感じたことは、佐藤さんが子どもを助けた背景にはそんな深いものがあったんだということです。佐藤さんは子どものころ用水路に落ち母に助けられたことがあるということ、それで落ちた子どもを見て興奮して夢中になって川に入ったこと、不思議なつながりがあってびっくりしました。僕はこのような状況に出会ったらおそらく消防などを頼ると思います。そう思うと僕は、佐藤さんや新大久保駅でホームから落ちた人を助けようとした2人のように、危険でも人を助けようとする人を尊敬します。その人たちのような精神を少しでももてればいいと思います。 2年 男子</p>
--	--

## 2 福祉のこころ醸成プログラム実施内容「生命の授業第2弾」

期 日	平成23年9月16日(金)
会 場	上野原市立島田中学校
内 容	<p>「命をつないだセイダイモ」 講師：小俣 博 氏 対象：全校 目的：食と体、心、命は密接に結びつく。食の問題を通して命について学ぶ</p> <p>「命をつないだセイダイモ」と題して講演を行いました。江戸時代の大飢饉に際し、風水害に強く栄養価が高いジャガイモの栽培が広がった歴史を説明した上で、世界的に人口増加とともに食料不足が懸念されているので、食料を大切にすることを学びました。また、セイダイモと名付けられた経緯も説明いただきました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>[生徒感想]</p> <p>◇小俣さんのお話を聞いてジャガイモの歴史について知ることができました。2万人が死んだ浅間山の噴火の後のききんで中井清太夫という人がこの地域にジャガイモを広めたことからセイダイモと呼ばれるようになったと聞いて驚きました。さらにジャガイモのルーツがアンデス山脈で、だからとてもきびしい場所でも育つということを初めて知りました。ききんの時でも育ち人を飢餓から救ったセイダイモはまさに「命をつないだ」といえると思います。また食料は生きていく上で一番大切で、それなのに日本は食糧自給率が低いので、来るべきときに備えておくべきだというのが話の確信かなと思いました。2年 男子</p> <p>◇日常生活でいつも食べているジャガイモ。そんなジャガイモに深い歴史があるとは知りませんでした。飢饉を救ったりいろいろな場所でも育つすごい食物だったのです。そして興味をもったのはセイダイモという名前。自分の祖父母もセイダイモと言って聞いたことがあったのですが、そのセイダイというのは人の名前だったんですね。家に帰って中井清太夫という人を調べてみたいと思いました。</p> <p>最近の若者は好き嫌いが多いと言われます。しかし、今現在、さまざまところで飢えている人がいます。そんな人たちのことを思い、「食べられることが幸せなんだ」「好き嫌いをなく食べよう」と再度思いました。 3年 女子</p>

## 2 福祉のこころ醸成プログラム実施内容「生命の授業第3弾」


期 日	平成23年10月22日(土)
会 場	上野原市立島田中学校
内 容	<p>「命を育み慈しむ親子のコミュニケーション」  講師：藤森 晴江 氏  対象：全校</p> <p>「命を育み慈しむ親子のコミュニケーション」と題して講演を行いました。親子のコミュニケーションの大切さ、話の聞き方について会場全員でロールプレイ形式にて考えてもらい、自分の気持ちを「わたし」を主語に表現するつたえ方、言葉のかけ方について学びました。</p> <p>[生徒感想]</p> <p>◇この講演を聞き、親とのコミュニケーションは本当に大事だということに気づきました。たった一言で意味が変わってしまう言葉。言葉というものは伝えなければ分からないと知りました。</p> <p>親はいつも心配してくれる言葉を出してくれます。ストレートに言うだけではなく、安心する言葉を出してくれるので、本当にうれしいです。</p> <p>今回の講演を聞き、いっぱい知ることができました。私は言葉を考えないで言っちゃうタイプなので、言葉を選びながら、これからは気をつけていきたいです。そして実践していきたいです。3年 女子</p> <p>◇今日のこの講演会を聞いて、親との接し方についてももう一度考え直して改めていきたいなと思いました。</p> <p>藤森さんのお話は今まで話してきた人たちとは違い、生徒や保護者の人たちに問いかけたりしていて、あきずに聞くことができました。藤森さんの言葉は一つ一つが自分の心に響いているようで心に残るものが多かったです。特に心に残ったのは、言葉とは時に人の心を傷つけ、人の心をいやすもの、という言葉でした。確かにその通りだなと私は思いました。私は多分知らず知らずに相手の人に傷つけるような言葉を言っていたかなと思います。でも今日の講演のことをしっかり受け止めながら相手の人に対しての言葉を気をつけていこうと思います。3年 男子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>




### 3 地域関係者の連携による取組み

期 日	平成23年8月26日・(金) 10月28日 (金)・11月25日 (金)
会 場	島田コミュニティーセンター
内 容	<p>実施学年：全学年  島田子育てサークル交流活動内容  子育て中の親子の交流を見守ったり、親や子どもたちに寄り添い、親が安心して元気に子育てができるよう支援する。  中学生の体験内容  ①生徒一人一人奉仕活動（手伝い）の目的意識を持ち、親・子どもたちと交流し奉仕活動を行う。  ②子どもたちの見守り、子どもたちに寄り添う。  （遊び相手、手遊び歌、小さな命を感じてもらおう抱っこ体験、安全確保）  ③お茶会の運営を手助けする。  （準備・片付け・清掃）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>[生徒感想]  ◇感じたことは、小さい子はかわいいということ。でも子どもの世話は大変だということ。小さいことどういうふうに通じ合えるのかを考えさせられた。小さい子の親は小さい子が泣き出したときどういうふうに通じ合っているのかと不思議だった。小さい子の世話は大変だし、コミュニケーションの取り方も難しいけど、気持ちが分かったり通じたりするとうれしい気持ちになるんだなと思った。 1年 女子</p> <p>◇「ふれあってみて下さい」と言われて少し動揺してしまっただけで、子どもの方から近寄ってきてくれて、ボールを何個も渡してくれる子がいて助かった。その子に「えらいね〜」とか、自分から袋に入れられたりしたら「すごいね〜」とか言ってあげていろいろ遊ぶことができてよかった。  最初行ったときに「ちょっとめんどくさそう」という気持ちもあったけど、一緒に遊んだりしてみて、小さい子をふれあうってこんなに楽しいものなんだなと感ずることができてよかった。まだ、言葉はあまり話せないけど楽しむことでどんなことを伝えようとしているのか分かる気がしました。 1年 男子</p> <p>◇小さい子どもたちと接するのはとても大変でした。しかし、遊んでいると私も笑顔になるし、たった視線を変えるだけで子どもたちの顔もはっきりと分かってよかったです。また、子どもたちのお母さんも顔がニコリしていていいなと思いました。  この子育てサークルとの交流をして、子どもたちとの接し方などさまざまなことを学びました。子どもたちが笑顔になるとこっちはうれしいし、遊んでいる姿を見るだけでとても楽しかったです。 3年 女子</p>

### 3 地域関係者の連携による取組み

期 日	平成23年10月21日(金)
会 場	各施設訪問
内 容	<p>実施学年：1学年 目的 高齢者福祉施設の現場の状況を知り、高齢者福祉に関わって中学生の自分に何ができるか、どう考え、どうかかわるべきか考える。 各施設を4～5名のグループで訪問し施設入居者との交流・現場体験を行いました。</p> <p>①老人保健施設 旭ヶ丘 ②にんじん・上野原 ③特別養護老人ホーム フェリーチェ上野原 ④コモアケアセンターあい里 ⑤特別養護老人ホーム桜荘</p> 

### 3 地域関係者の連携による取組み(ジャガイモの栽培・収穫)

期 日	平成23年5月～7月
会 場	上野原市立島田中学校
内 容	<p>4月に生徒自らジャガイモの苗植えを行いました。 小俣博さん講演の「命をつないだセイダイモ」に向け、ジャガイモの苗植えから収穫まで実際に体験し食してもらいました。 また、収穫されたジャガイモを10月に実施する施設訪問にて、各施設の方々に食していただき「命」をつなぐことを実際に学んでいただくため実施しました。</p> <p>①4月にジャガイモの苗植え ②5月ジャガイモの土寄せ・間引き ③7月、ジャガイモの収穫</p> 

### 3 地域関係者の連携による取組み(花植え作業)

期 日	平成23年10月31日(月)
会 場	上野原市立島田中学校
内 容	<p>実施学年：全校生徒</p> <p>目的 生徒自身による花の苗植えにより、植物に対する命の大切さを学び地域との結びつきを深める事を目的に実施しました。</p> <p>内容</p> <p>①花の苗を生徒たちで植えました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 20px;">  </div> <p>②植えた花を地域に配布</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>

#### 4 よかった点（取り組みを通しての成果）

- 高齢者福祉施設への職場体験、高齢者とふれあうことで、実際に現場の大変さ高齢者に対する思いやる気持ち接し方を学べ、今後の生徒ひとりひとりの高齢者に対する目的意識が高められた。
- 身近な人の人命救助体験談を聞き、命の尊さ、自他の命を大切にすることや身近に潜む危険について生徒自身認識でき、安全な生活をおくる第一歩を踏み出すことができた。
- 生徒自らジャガイモの苗植え・収穫を体験し、普段何気なく食しているジャガイモを栽培する大変さや、生命の授業第2弾においてジャガイモの栽培が広がった歴史・どのように命をつないだか学んだことで、生徒ひとりひとり食糧を大切にすることを認識できよかったと思う。
- 子育てサークル共同授業において、子どもの見守り・赤ちゃん抱っこ体験といった小さな命を生徒自身肌で感じたことで、子育てに対する大変さを自覚できた。
- 子育てサークル連携授業体験したことにより、自分がこれまでどのように育ったか他人の子供を通し学ぶことができ将来的に子育てについて考える切っ掛けになり良かった。
- 生命の事業第3弾講話におき、言葉の使い方によって、人を傷つけ傷つけられる事、親子のコミュニケーションの大切さを改めて自覚することができた。
- 地域との連携により、繋がりを作ることが出来大変良かった。
- 地元の人と連携することは、生徒達自身あの人は見たことがある、その人はこのようなことをしていると身近で感じ何事も身近で出来るという思いにつながり良かった。
- 事業を行っていく上で生徒たちの連携も図れた。
- 各事業において、色々な視点からの命の大切さを学ぶことができ良い体験ができた。

#### 5 問題となった点（取り組みを通しての課題）

- 地域と連携することは、今後の生徒・学校・社協共に必要であり、より多くの地域の方々に情報発信等を行えばよかった。

#### 6 今後に向けての抱負等

- 今後も学校・地域・社協等の連携し福祉教育を通じた事業展開を各市内に広めていきたい。
- 学校における取組みだけでなく、より多くの地域の方々との交流をすることが福祉教育を通じた多様なまちづくりには必要であることを本事業通し確認することができた。この成果を更に地域全体に、よい方向に繋げていければと考えている。
- 社協・学校にて地域の隠れた人材等をお互い探し、情報共有を行い学校授業・社協事業に活かしていければと考えている。

## 6 甲州市社会福祉協議会の取り組み



### 1 福祉教育推進委員会の構成と開催

委員構成	1 塩山南小学校教務主任 2 塩山南小学校4年生担任 3 甲州市民生委員児童委員連絡協議会 副会長	4 児童福祉部長（主任児童委員） 5 甲州市老人クラブ連合会副会長
開催期日	討 議 内 容	
2月9日 (木)	福祉教育推進委員会開催（塩山南小学校） ・委員会メンバー自己紹介 ・事業の趣旨説明	

### 2 福祉のこころ醸成プログラム実施内容「生命の授業」

期 日	平成24年 1月24日（火）
会 場	塩山南小学校 2学年
内 容	講師：矢崎 繁氏 「矢崎さんのお話を聞く会」～オーディンとともに～ 盲導犬との生活、点字習得の経験談を学びました。

期 日	平成24年 1月26日（木）
会 場	塩山南小学校 1学年
内 容	講師：重田都志子氏 「手話に親しもう」 簡単な手話で単語や、挨拶を覚えました。

期 日	平成24年 2月16日（木）
会 場	塩山南小学校 4学年
内 容	<p>「二分の一成人式をしよう」 学習のねらいとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の成長を振り返り、これからの自分の夢に向かって希望を持つことができる。</li> <li>・これまで、多くの人に支えられて成長してきたことに気付き、感謝の気持ちをもつことができる。</li> <li>・友達と協力し合い、二分の一成人式で自分の役割を果たすことができる。</li> </ul> <p>の三点を掲げて事前授業から取り組んできました。</p>
	 

### 3 地域関係者の連携による取り組み

期 日	平成23年11月29日(火)
会 場	塩山南小学校 体育館・校庭 1学年
内 容	<p>昔の遊びを教えていただく会 「昔遊び」を通して、お年寄りとの交流を深めることができた。</p>    

### 4 よかった点（取り組みを通しての成果）

<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業参観に行った事により親子で一緒に授業に参加できた。</li> <li>●地域関係者の連携による取り組みでは、日頃接することが少ない高齢者と子供のふれあいによる世代間交流は必要だと思った。</li> <li>●「こころの教育」は押しつける教育では駄目ですが、うまく児童に考えさせ児童の言葉として夢を語らせ、感謝の手紙を書いたのは目指すところに達したと思う。</li> <li>●子供はこれまでの10年を振り返り、家族に見守られ多くの人の支えがあって育ってきたことを改めて感じ、親子で命の有難さを考える機会になって良かった。</li> </ul>
---

## 5 問題となった点（取り組みを通しての課題）

- このような事業が継続して行われることにより子供の心は育ち、人格が形成されていくのだと思うのでこれからも続けて欲しい。
- 中学校を指定校にするには、年間スケジュールが詰まっているので事業への取り組みは難しいという意見がかなりあった。

## 6 今後に向けての抱負等

- 子供だけが対象に成りがちな福祉のこころ醸成事業だが、大人にも福祉教育は必要だと感じたのでこのような親子で参加できる事業に取り組んでいきたい。
- 「福祉のこころ」を育んでいくためには学校だけでなく、多くの地域の方々のサポートが必要になるということを感じた。また、地域の方々も協力したいという強い思いがあるということも確認できた。

## 7 市川三郷町社会福祉協議会の取り組み

### 1 福祉教育推進委員会の構成と開催

委員構成	1 市川三郷町立市川小学校校長 2 市川三郷町市川小学校教頭 3 市川三郷町市川小学校PTA会長 4 市川三郷町民生委員児童委員協議会市川大門支部長	5 市川三郷町民生委員児童委員協議会市川大門支部児童福祉部長 6 市川三郷町ボランティア連絡協議会長 7 NPO法人みんなの広場・市川三郷理事長
開催期日	討 議 内 容	
7月21日	・福祉のこころ醸成事業について ・福祉教育推進委員について ・事業説明、年間計画について	
10月5日	・事業の実施について	
12月22日	・事業報告 ・まとめ(総括)	

### 2 福祉のこころ醸成プログラム実施内容「生命の授業」

期 日	平成23年11月10日(木) 午後2時～3時
会 場	市川小学校 3階ホール
内 容	<p>緩和ケアの入院施設でもある玉穂ふれあい診療所での「いのち」のやりとりについてスライドでわかりやすく話をしていただいた。また、お父さんをガンで亡くした六年生と東日本大震災で両親を亡くした児童の作文を朗読していただいた。話を通じて6年生児童59名に「いのち」とは何かを考えてもらった。また、学校開放日に行うことができたため、保護者30名 一般の方22名、社協・教職員他14名の計125名の参加があった。</p> <p>「いきるー緩和病棟の現場からー」          どちペインクリニック玉穂ふれあい診療所 統括看護師長長田牧江氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに 自分がなぜ看護師をめざしたか 生い立ちからめざした理由まで 職場へつれていった娘さんの話と娘さんの作文(当時小学4年生) みなさんには夢をもってもらいたい</li> <li>・「いきる」 「いのち」ってなあに? どこにあるの? かたちは? かたさは? いろは?</li> <li>・スポーツ少年団(野球)の試合に出ている孫の応援に行ったおばあさんのお話→死ぬ場所は自分で決める</li> <li>・お父さんががんになってみとった小学6年生男子のお話と小学6年生男子の作文朗読</li> <li>・101歳のおばあさんのお話「愚痴は飲み、意見は言え」</li> <li>・お母さんと中学生の娘さんのお話</li> <li>・「人まどわされずありのままに生きよう」</li> <li>・「明日を生きる君へ、明日のない 俺のことをわすれてはいないか」</li> </ul>



- ボランティア活動について  
きっかけが大事 できることを  
診療所でのボランティア活動
- 震災孤児になった児童の作文朗読
- 「いのち」とは

<児童の感想まとめ>

#### 今を一生懸命生きていく

- ・震災で亡くなってしまった人達、病院で亡くなってしまった人達の分も長生きして、一日一日を一生懸命生きようと思った。
- ・今、自分に出来ることを一生懸命取り組むことの大切さを知った。
- ・少しずつ死に近づいている私たちは何をすればよいのか考えると、後悔しないよう毎日を大切に過ごすことが大事だと分かった。

#### 家族、友人の存在に感謝

- ・家族、友人と過ごせる時間も限られているので、一緒に関われる時間を大切にしたい。
- ・家族、友人に囲まれながら亡くなっていった人たちの話を聞いて、私自身も様々な人たちに愛され支えられ生きているのだと感じた。

#### 相手を思いやる気持ちが育まれた

- ・ボランティア活動をおこない、お年寄りの皆さんに喜んでもらえたことが嬉しかったが、私自身もお手伝いをさせてもらい優しい気持ちになれた事が何より嬉しかった。
- ・自分の命だけでなく身のまわりの人の命も大切にできる人になりたい。

<保護者・一般の方の感想・抜粋>

- 日頃から分かっているつमोरの命の大切さについて、飾らず、突きつけられ、胸にグサッとささりました。
- 子どもだけでなく私自身も明日、明日と先延ばしにしてしまう事が多いということ、一生懸命には生きていないなど感じました。改めて「いのち」ということを考えました。参加してよかったです。
- 命の大切さを改めて感じました。子どもたちも集中して聞いていた。きっと人を助けることのできる大人になることなのでしょう。感動をありがとうございました。最後の迎え方は人それぞれ。頑張ってきた証を笑顔で送ってあげられるなんて素敵だと思った。私も生きる、いのちを大切にしていきたいです。
- 子どもたちが自分のことのように真剣に話を聞いていたと思いました。
- 娘が、自分の命、相手の命も大切にできる人に育ってほしいと願っています。
- もっともっと学校生活の中で子どもたちがボランティア活動を経験することができれば良いと思う。
- 六年生の感想に感動しました。子どもだと思っているうちに、あの様な素晴らしい感性をもつ様になるのかと思いました。
- 私も毎日、患者と向き合って仕事をしています。今日の話聞き、命の大切さを今まで以上に感じました。一日、一日を大切に、患者さんにもっともっと良いケアが出来るように頑張りたいです。とても良い講演会をありがとうございました。職場に帰り、同じ仲間である看護師に話をしたいと思います。
- 今を大切にすることという子どもが理解し、考えてくれると嬉しいです。友人を亡くしたとき寂しが多く、笑顔で見送れなかったこと、映像を見ながら少し後悔してしまいました。私は笑顔で見送ってもらおう。

期 日	平成23年12月5日(月):1組、平成23年12月9日(金):2組 午後1時50分～2時50分
会 場	玉穂ふれあい診療所
内 容	「生命の授業」後に玉穂ふれあい診療所を訪問して、ボランティア活動をクラスごとに行った。 3～4グループに分かれて30分間ボランティア体験を(窓ふき・カレンダー作り・診療所の掃除(雑巾がけ)・クリスマスツリーの飾り付け・風呂掃除)を行い、その後ホールにて入所者に歌の発表(校歌・故郷)を行った。 9日の時は入所者がお礼をしたいということで診療所の看護師さん達と「朝はどこから」を歌っていただいた。帰るときは患者さんたちと児童が握手をしてお別れした。

### 3 地域関係者の連携による取り組み

期 日	平成23年10月29日(土) 午前9時30分～午後12時30分
会 場	市川大門町民会館 視聴覚室・調理室
内 容	「世代間交流事業 よっちゃばってカレーにしらだぁ～in いちかわ」 NPO 法人みんなの広場・市川三郷といっしょに開催。 高齢者15名と小学生12名でみんなの広場・市川三郷の会員13名、計40名でいっしょに楽しくカレー作りを行った。はじめに小学生に高齢者疑似体験を行い、高齢者について学んでもらった。その後高齢者たちといっしょに班ごとにカレーの具材を決めてカレー作りを行った。班ごとにカレー自慢をしたり、食後に歌を歌って交流を深めた会となった。 朝の会 ・高齢者疑似体験*小学生のみ 上半身のみ装着。 体験メニューをよみ、服を着て、字を書く体験をした。 はじめの会 ・疑似体験の感想発表 低学年：目がみえずらかったのが一番困った。耳が病気みたいで近くではなしてくれるとよかった。 中学年：体が重くなって首が痛かったり肩がこった。ボタン止めがうまくできなかった。楽しかった。疲れた。 高学年：色によってはみえずらかった。指が思うように動かない。重くて体が前かがみになる。 ・アイスブレイク じゃんけんゲーム(今日一番のラッキーは?) ・班決め *風船をひいて色別に班を5つ決めました。 カレー作り 昼食 みんなで食べるとおいしいとの声がありました。 班ごとにカレー自慢をしました。 終わりの会 みんなで歌を楽しく歌いました(もみじ・武田節・いいじゃん市川)

#### 4 よかった点（取り組みを通しての成果）

- 普段あまり考えることが少ない「いのち」について考えることは大切だと感じた
- 学校開放日に行ったことで親子が同じ話を聞くことができたり、近所の方が聞くことができたりと思いが共有できてよかった。
- 「生命の授業」の後にボランティア体験として六年生児童が玉穂ふれあい診療所にて入院されている方たちとふれあう機会が持てたことはよかった。
- 児童には、講演と体験をセットで学ぶことができよかった。
- 地域関係者との連携事業では、世代間交流事業を行い、やはり、高齢者と子どもとのふれあいは必要だと実感した。
- 広報の仕方がよくできていた。
- 生徒の感想を聞くと、いのちの尊さについて真剣に考える様子が見えてきた。

#### 5 問題となった点（取り組みを通しての課題）

- 単年度だけではなく、これからも継続して行うことが重要である。
- 地域の方々にも生命の授業を聞くことは必要だと感じるので、毎年行い、少しずつでも聞く人をふやしてもらいたい。

#### 6 今後に向けての抱負等

- 学校でも来年度での授業の継続については意欲的に取り組んでいただけるとの回答をいただいた。ただ、予算についての問題を指摘され、今後どう取り組むかは課題として残ってしまったが、できるだけ継続の方向で進めていきたい。

ここでは、過去モデル指定を受けた市町村社協が「福祉のこころ醸成事業」を進めていくうえで直面した、困難事例の対応策等をQ&Aで解説します。

## 1 準備段階

**Q1** 地域・学校を選定する際に気をつける事は？

**A1** この地域が良い、悪いというものはありません。ただ、初めて事業を実施するのであれば、元々、社協とつながりのある学校の小学校区や中学校区を舞台とすることで、スムーズに事業を進める事ができるでしょう。

最初に取り組みやすい地域で事業を展開できれば、その成果や課題を翌年度に活かし、新たな地域での取り組みへもつなげやすくなります。

**Q2** 学校や関係者に協力を依頼する際に気をつける事は？

**A2** 事業実施年度になってからスムーズに実施できるように、前年度から事業の目的や効果などについて、説明を行い協力の了解をもらいましょう。

特に学校は、前年度内には、年間計画等が設定されるので、遅くとも12月までに協力の了解をもらいましょう。

学校への依頼の際は、難色を示される可能性もありますが、社協の熱意を伝えて前向きに考えてもらうことが必要です。学校等へ訪問する際は、担当者だけでなく会長や事務局長と同行し、社協の本気度を示しましょう。

## 2 事業実施段階

Q3 福祉教育推進委員会の構成メンバーは？

A3 例としては、P. 12のメンバーが挙げられます。肩書きにこだわって構成することも一つの方法ですが、地域福祉活動の現場で実践している人材やボランティアで構成することもフットワークが軽く良いでしょう。

また、事業の中心となるメンバーはできるだけ固定化し、事業の企画・実施・評価を継続的に検討していく方法や事業の内容によってメンバーを拡大していく方法もあります。

Q4 「福祉のこころ醸成プログラム（<sup>いのち</sup>生命の授業）」の内容と対象学年は？

A4 学校の要望を踏まえて福祉教育推進委員会で議論して決めていきますが、児童・生徒の発達段階に応じた内容になるよう注意が必要です。例としては、P. 5を参照してください。

Q5 事業への参加は委員会メンバーや児童・生徒だけで良いの？

A5 「福祉のこころ醸成プログラム（<sup>いのち</sup>生命の授業）」や「地域関係者の連携による取り組み」は、委員会メンバーや学校の児童・生徒だけでは、事業の目的である「大人の福祉のこころの再学習」や「住民主体の福祉教育・地域福祉推進活動の活発化・継続化」につながりません。児童・生徒の保護者や地域住民を巻き込んでいくべきです。

参加の促進方法としては、委員会メンバーや学校に周知を依頼するとともに、回覧板やチラシ等も利用しましょう。また、学校開放日や日曜参観日に事業を実施することも効果的です。

### 3 事業評価段階

Q6 事業の評価方法は？

A6 事業の成果や課題を明確にし共有する事は、重要です。事業評価を行い、次年度以降に反映させることで、事業内容の充実化が図れます。

具体的な評価方法の例については、P. 19のとおりです。また、福祉教育推進委員会で評価項目について検討することも大切です。

Q7 事業を継続していくための財源の確保は？

A7 共同募金の配分金やその他助成制度の活用が挙げられます。

また、企業におけるCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の一環としての助成制度の活用や商工会等と協働し事業を実施していくことも継続していくための方法として挙げられます。

既存の財源確保の方法だけでなく、法令を遵守しながら様々な新しい方法を検討することや工夫をすることが必要です。



## 資料編





# 「福祉のこころ醸成事業」実施要綱

## 1 趣 旨

現在、核家族化やライフスタイルの変化、地域社会のつながりの希薄化など、子どもを取り巻く環境は厳しさを増している。こうした福祉・生活課題の解決に向けて地域全体で協働していく必要がある。

本事業では昨年度の成果を効果的に波及し、学校・社会福祉協議会等の連携による「福祉のこころ」の醸成、さらには福祉教育を通じた多様なまちづくりの展開を図ることを目的とする。

## 2 実施主体 山梨県社会福祉協議会

## 3 推進主体 モデル市町村社会福祉協議会

## 4 実施内容

### (1) モデル市町村社協実施内容

#### ①活動母体となる福祉教育推進委員会の組織化、委員会の開催

委員構成：(1) 学校 (2) 教育委員会 (3) PTA (4) 民生委員・児童委員  
(5) 自治会 (6) ボランティア・NPO (7) 企業 (8) 学識経験者  
(9) 行政 (10) 社協

#### ②福祉のこころ醸成事業の推進

学校との連携による「生命の授業」の実施  
その他県社協が認めるもの

#### ③地域で関係者が連携しての事業

福祉教育推進委員会が中心となり、学校や地域の関係者と連携して地域における福祉教育への取り組みを図る。

### (2) 山梨県社会福祉協議会実施内容

#### ①福祉のこころ醸成事業推進会議の開催

ア 期 日 4月・7月・12月  
イ 対 象 各指定社協  
ウ プログラム 6月 事業説明会  
8月 途中経過報告・情報交換  
12月 途中経過報告・成果報告に向けての情報交換

#### ②マニュアルの整備・策定

マニュアル策定のための検討

#### ③指定社会福祉協議会への訪問支援

委嘱された推進委員と県社協職員による訪問支援

【推進員】・岸本千恵 氏 (山梨県ボランティア協会 事務局長)  
・望月栄司 氏 (西島福祉レク研究舎 代表)

## 5 実施方法

モデル社会福祉協議会指定による事業推進

- (1) 指定社協 平成21年度：5ヶ所 平成22年度：8ヶ所 平成23年度：7ヶ所
- (2) 指定期間 1年
- (3) 事業助成 1ヶ所10万円

## 6 実績報告

当該社会福祉協議会は平成24年2月末日までに実績報告書および収支決算書を山梨県社会福祉協議会あて提出する。

## 「福祉のこころ醸成事業」の経過

### 「平成19年度 福祉のこころ醸成プログラム検討会議」

#### 検討会議メンバー

No.	氏名	所属
1	新藤 京子	山梨いのちの輝き共生フォーラム 座長
2	大澤 英二	山梨いのちの電話 理事長
3	望月 栄司	西島福祉レク研究所 代表
4	天野 一	山梨県PTA協議会 会長
5	岸本 千恵	山梨県ボランティア協会 事務局長
6	奥山 実	甲州市立塩山北中学校 校長
7	遠山 美雪	甲州市福祉保健部健康増進課 課長補佐（保健師）
8	葉袋 貴	山梨県教育委員会義務教育課 指導主事
9	根本 豊	山梨県福祉保健部福祉保健総務課 課長補佐
10	成島 秀栄	山梨県社会福祉協議会 事務局長
11	渡辺 裕一	健康科学大学健康科学部福祉心理学科 准教授

#### 事前準備

- 期 日 検討会議メンバーに、事務局が事前に対応を図る
- 内 容 ①福祉のこころ醸成プログラム検討会議の目的と日程説明  
②第1回「山梨いのちの輝き」共生フォーラムへの参加依頼

#### 第1回「福祉のこころ醸成プログラム検討会議」（第1回「山梨いのちの輝き共生フォーラム」）

- 期 日 平成19年7月4日（水）
- 内 容 第1回「山梨いのちの輝き」共生フォーラムの参加と運営  
①新藤京子さん講演内容（プログラム）への理解を深める  
②講演感想や学校現場等での実施プログラム等の把握

#### 第2回「福祉のこころ醸成プログラム検討会議」

- 期 日 平成19年8月30日（木）
- 内 容 ①第1回「山梨いのちの輝き」共生フォーラムの振り返り  
②福祉のこころ醸成プログラムについて（提案内容等）  
③プログラムの試行的実践について（期日、学校、対象等）  
④モニター調査について（アンケート方式、対象、内容等）

#### 第3回「福祉のこころ醸成プログラム検討会議」

- 期 日 平成19年10月12日（金）
- 内 容 ①第2回福祉のこころ醸成プログラム検討会議の協議内容確認  
②「生命の授業」の試行的実践について（事前準備・当日運営）  
・モニター調査について  
・事前準備及び当日運営について  
③その他（次回会議日程調整）

#### 福祉のこころ醸成プログラム（生命の授業）の試行的実践

- 期 日 平成19年11月7日（水）

会 場 甲州市立塩山北中学校 体育館  
 対 象 1学年56名、保護者33名  
 参加者 市町村社協職員、甲州市内教育関係者、愛育会関係者等61名  
 内 容 生命の授業「君たちが生まれ育ってきた道、そして、これから」  
 講師：山梨いのちの輝き共生フォーラム 座長 新藤京子 氏  
 ※塩山北中学校の道德の公開授業参観において実施した。

#### 第4回「福祉のこころ醸成プログラム検討会議」

期 日 平成19年12月21日（金）  
 内 容 ①第3回検討会議の協議内容確認について  
 ②「生命の授業」の試行的実践の振り返りについて  
 ・試行的実践に参加して  
 ・アンケート感想文について  
 ③今後の取り組みについて  
 ・プログラム内容について  
 ・モニター調査について  
 ・地域における取り組みについて  
 ④その他

### 「平成20年度 福祉のこころ醸成プログラム検討会議」

#### 検討会議メンバー

No.	氏 名	所 属
1	新藤 京子	山梨いのちの輝き共生フォーラム 座長
2	大澤 英二	山梨いのちの電話 理事長
3	望月 栄司	西島福祉レク研究舎 代表
4	天野 一	山梨県PTA協議会 会長
5	岸本 千恵	山梨県ボランティア協会 事務局長
6	薬袋 貴	山梨県教育委員会義務教育課 指導主事
7	武川 菊雄	山梨県福祉保健部福祉保健総務課 課長補佐
8	幡野 芳久	山梨県社会福祉協議会 事務局長
9	渡辺 裕一	健康科学大学健康科学部福祉心理学科 准教授

#### 第1回「福祉のこころ醸成プログラム検討会議」

期日 平成20年6月6日（金）  
 内容 ①平成19年度の取り組み報告について  
 ②平成20年度「福祉のこころ醸成プログラム検討会議の進め方」（案）について  
 ③その他

#### 第2回「福祉のこころ醸成プログラム検討会議」

期日 平成20年8月4日（月）  
 内容 ①プログラムの検証方法について  
 ②今後の対応について  
 ③その他

#### 第3回「福祉のこころ醸成プログラム検討会議」

期日 平成20年12月19日（金）

- 内容 ①プログラムの検証指標について  
②報告書の骨子について  
③その他

#### 第4回「福祉のこころ醸成プログラム検討会議」

期日 平成20年2月10日（火）

- 内容 ①報告書の作成（案）について  
②「山梨いのちの輝き」共生フォーラムの実施について  
③その他

### 「平成20年度 福祉のこころ醸成プログラム推進会議」

#### 第1回「福祉のこころ醸成プログラム推進会議」

期日 平成20年10月17日（金）

対象 28市町村社協事務局長等

- 内容 福祉のこころ醸成プログラムの推進について  
①概要説明について  
②今後の取り組みについて  
③研究協議  
④その他

#### 「福祉のこころ醸成事業」実施希望調査

平成20年度11月～1月にかけて、市町村社協に対し、平成21年度「福祉のこころ醸成事業」実施希望調査を行った。

調査の結果、「甲府市・北杜市・中央市・山梨市・西桂町」の5ヶ所から実施希望の申し出があった。

#### 第2回「福祉のこころ醸成プログラム推進会議」

期日 平成21年2月20日（金）

対象 該当市町村社協・学校5ヶ所

内容 地域における住民が主体となった福祉教育の推進

##### ①実践発表

小平市社会福祉協議会ボランティアセンター係長 中静康人 氏

テーマ：小平市が取り組む地域と学校のつながり

- ・学校との連携における現状と仮題
- ・地域の関係者との連携、その進め方と留意点

##### ②研究協議

- ・実践発表に対する質疑応答
- ・福祉のこころ醸成事業の展開（県社協からの提案と説明）
- ・学校との連携を図る必要性と進め方
- ・地域で関係者が連携して、住民主体の福祉教育をどう進めるか、その際の方法及び留意点

## 平成21年度 福祉のこころ醸成事業

5カ所の市町村社協をモデル指定し、事業の推進を図る。

### 指定社協

No.	社協名	協力学校
1	甲府市社会福祉協議会	甲府市立玉諸小学校
2	山梨市社会福祉協議会	山梨市立牧丘第一小学校
3	北杜市社会福祉協議会	北杜市立小淵沢小学校
4	中央市社会福祉協議会	中央市立豊富小学校
5	西桂町社会福祉協議会	西桂町立西桂小学校

## 平成22年度 福祉のこころ醸成事業

8カ所の市町村社協をモデル指定し、事業の推進を図る。

### 指定社協

No.	社協名	協力学校
1	甲府市社会福祉協議会	甲府市立玉諸小学校
		甲府市立甲運小学校
		甲府市立富士川小学校
2	山梨市社会福祉協議会	山梨市立牧丘第一小学校
3	大月市社会福祉協議会	大月市立猿橋小学校
4	北杜市社会福祉協議会	北杜市立明野小学校
		北杜市立高根東小学校
		北杜市立高根中学校
5	笛吹市社会福祉協議会	笛吹市立八代小学校
6	中央市社会福祉協議会	中央市立三村小学校
7	西桂町社会福祉協議会	西桂町立西桂小学校
8	富士河口湖町社会福祉協議会	富士河口湖町立勝山中学校

## 平成23年度 福祉のこころ醸成事業

7カ所の市町村社協をモデル指定し、事業の推進を図る。

### 指定社協

No.	社協名	協力学校
1	都留市社会福祉協議会	都留市立第一中学校
		都留市立第二中学校
		都留市立東桂中学校
2	韮崎市社会福祉協議会	韮崎市立穂坂小学校
3	南アルプス市社会福祉協議会	南アルプス市立南湖第一保育所
4	甲斐市社会福祉協議会	甲斐市立双葉東小学校
5	上野原市社会福祉協議会	上野原市立島田中学校
6	甲州市社会福祉協議会	甲州市立塩山南小学校
7	市川三郷町社会福祉協議会	市川三郷町立市川小学校

## 「福祉のこころ醸成事業マニュアル検討会議」の経過

### 平成22・23年度 福祉のこころ醸成事業マニュアル検討会議

#### 第1回「福祉のこころ醸成事業マニュアル検討会議」

期日 平成22年10月29日（金）

- 内容 ①メンバー紹介  
②概要説明  
③マニュアル（案）について  
④意見交換

#### 第2回「福祉のこころ醸成事業マニュアル検討会議」

期日 平成22年12月17日（金）

- 内容 ①目次検討（案）について  
②フローチャート（案）について  
③ワーキンググループについて

#### 第3回「福祉のこころ醸成事業マニュアル検討会議」

期日 平成23年2月17日（木）

- 内容 ①フローチャート（案）について  
②ワーキンググループ内検討

#### 第4回「福祉のこころ醸成事業マニュアル検討会議（ワーキング）」

期日 平成24年1月20日（金）

- 内容 ①構成の確認  
②マニュアル内容の検討

#### 第5回「福祉のこころ醸成事業マニュアル検討会議（ワーキング）」

期日 平成24年2月21日（火）

- 内容 ①前回の修正点確認  
②アンケート調査（追加項目）について  
③マニュアル内容の検討（前回の続き）

#### 第6回「福祉のこころ醸成事業マニュアル検討会議（ワーキング）」

期日 平成24年3月7日（水）

- 内容 ①前回の修正点確認  
②マニュアル内容の検討（最終）

検討会議メンバー

No.	氏名	所属・役職	検討委員
1	渡辺 裕一	健康科学大学 健康科学部福祉心理学科 准教授 (H22) 武蔵野大学 人間関係学部社会福祉学科 准教授 (H23)	平成22年度 平成23年度
2	矢具野 正美	甲府市社会福祉協議会	平成22年度
3	瀬間 和子	山梨市社会福祉協議会	平成22年度
4	上條 若奈	大月市社会福祉協議会	平成22年度
5	伊東 典雄	北杜市社会福祉協議会	平成22年度
6	長谷部 信浩	笛吹市社会福祉協議会	平成22年度
7	薬袋 哲	中央市社会福祉協議会	平成22年度
8	羽田 尚美	西桂町社会福祉協議会	平成22年度
9	岸本 千恵	山梨県ボランティア協会 事務局長	平成22年度 平成23年度
10	望月 栄司	西島福祉レク研究舎 代表	平成22年度 平成23年度

事務局（山梨県社会福祉協議会）

No.	氏名	所属・役職	備考
1	田辺 光正	地域福祉課 課長 (H22) 福祉振興課 課長 (H23)	平成22年度 平成23年度
2	橋爪 孝裕	地域福祉課 主査	平成22年度
3	矢崎 良典	福祉振興課 地域福祉推進担当 主査	平成23年度
4	栗田 大樹	地域福祉課 主事 (H22) 福祉振興課 地域福祉推進担当 主事 (H23)	平成22年度 平成23年度



